第3期中京区基本計画最終案に対するパブリックコメントの結果について

1 募集期間

令和3年3月15日（月）～4月30日（金） 47日間

2 計画案の周知方法

- ① 中京区役所、中央図書館をはじめ区内の公共施設等で配布するとともに、中京区役所ホームページにも掲載
- ② 市民しんぶん中京区版に掲載
- ③ メール、SNS等を活用して周知
中京マチビト Caféをはじめ区の事業にかかわりのあった方へのメール配信、京都府地域カメーリングリスト、Facebook（中京マチビト Café）等の活用
- ④ 市政協力委員や自治連合会をはじめとした地域の各種団体に配布したほか、各種団体の会議、まちづくり活動の場へ出向いて説明

3 募集結果

252名，515件

(1) 年齢別

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
人数	19	35	27	35	45	29	23	3	36	252

(2) 居住地域別

	中京区内	中京区以外の京都市内	京都市外	不明	合計
人数	56	110	26	60	252

(3) 提出方法

	御意見箱，持参	郵送・FAX	入力フォーム，メール	合計
人数	22	95	135	252

(4) 項目別 (件数)

大項目	小項目	件数
全般 (計画の構成等)		39
第1章 (まちの姿) 及び第2章 (まちづくりの課題)		29
第3章 (今後のまちづくりの方向性)		77
第4章 (目標実現に向けた戦略)	まちづくり戦略1	87
	まちづくり戦略2	40
	まちづくり戦略3	19
	まちづくり戦略4	30
	まちづくり戦略5	28
	まちづくり戦略6	48
	まちづくり戦略7	49
第5章 (計画推進のしくみ)		10
その他 (計画の推進等)		59
合計		515

4 御意見の要旨と御意見に対する考え方

お寄せいただいた御意見のうち、第3期中京区基本計画最終案に反映させていただいた御意見は60件、検討の参考とさせていただいた御意見は455件ございました。

なお、御意見の中には、個別・具体的な要望・提案も多く含まれておりましたが、これらについては、関係部局等とも連携し、今後具体的に事業を展開する際の参考とさせていただきます。

※以下、末尾に（*）の付いている御意見は複数の方からいただいた御意見です。

全般（計画の構成等）に関する御意見

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・文字の量が多い。イラストや写真でインパクト、メリハリをつけないと、最後まで読んでもらえない。 ・文字ばかりで読みにくい。写真やイラストを入れた方がいい。（*） ・よいことが細かく書かれているが、読みにくい。シンプルで分かりやすい冊子にしてほしい。（*） ・計画そのものは、とくに見直す必要はないが、若い世代に伝える工夫が必要。学生にもわかりやすいように、絵や図を用いて説明してほしい。 ・若者にもアピールできるような特長をもった冊子にしてほしい。行政が出す計画は幅広いひとを対象にしているようで、結局誰にもアピールできていないものが多い。 ・パブリックコメントの冊子はとても読みやすかった。これからつくる計画冊子でも、写真やグラフ、イラスト等多用して見やすく、わかりやすいものにしてほしい。 ・区内にはマンガミュージアムもある。たとえば、「太秦もえ」が案内するなど、親しみやすい計画にするためキャラクターをいれてはどうか。	分かりやすい冊子となるよう、レイアウトや配色を工夫するとともに、写真やイラストを追加します。また、若い方にも親しみをもっていただくため、キャラクターを追加します。

・コラムなど、工夫されている。マンガも取り入れてはどうか。 ・パブリックコメント冊子で、7つの戦略が色で分けているのはわかりやすいと思った。	
・実際に計画を読んだひとたちが「よしわたしもやろう」と行動を起こしてもらえるようなものにしてほしい。そのためには市民に強くアピールする要素が必要である。 ・小さなことでもいいので、わたし達区民が、日常生活のなかでできることが記載してあればやってみたい。 ・普段の生活のなかでやっていることが、実は各戦略を進めていたというような計画にしてほしい。	取組をよりわかりやすくお伝えするため、戦略1から7に「実現のポイント」を記載し、このなかで皆さんひとりひとりが日常生活のなかで取り組んでいただける具体例をお示ししておりますが、この内容が伝わるよう、「コラム」として強調した読みやすいデザインに変更します。
・番組小学校の記述があまりない。学区を知らない子どもばかりになる。工夫を求めたい。	計画冊子の巻末に「資料編」を追加し、学区を明示した地図を記載します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・素晴らしい内容である。着実に実行してほしい。 ・課題を的確に捉えたよい戦略である。 ・とてもよいと思う。 ・よいと思う。(*) ・計画を進めてほしい。 ・計画を策定してからが本番である。実現できるようがんばってほしい。	評価いただいた本計画に基づき、今後、皆さまとともに取り組んでまいります。

・京都市基本構想を締めくくり、次の 25 年につながるものにしてほしい。	本計画は、「世界文化自由都市宣言」の都市理念の下、「京都市基本構想（グラウンドビジョン）」に基づくとともに、全市的な未来像と主要な政策を明示した「京都市基本計画」とは同列・相互補完の関係にあります。本計画に記載している各施策を進める際はもとより、市の計画に掲げる各施策についても、各関係部局と一体となって推進してまいります。
・区の個性もよいが、無駄が出てはいけないので、市の計画とも連携して進めてほしい。 ・京都市など、あらゆる主体と連携し、にぎわいのあるまちづくりを進めてほしい。 ・京都市と連携し、区民や市民のニーズに合った雇用を創出し、にぎわいのあるまちにしてほしい。 ・京都市のさまざまなエリアとつながるまちづくりを進めてほしい。活気あるひとの多いまちになってほしい。 ・中京区単独ではなく、近隣の行政区との連携も必要である。	本計画は、全市的な未来像と主要な政策を明示した「京都市基本計画」とは同列・相互補完の関係にあります。本計画に記載している各施策を進める際はもとより、市が進める各施策についても、各関係部局や他区とも連携して推進してまいります。
・分野別の計画がたくさんありすぎる。全てを市の基本計画に一本化した方がわかりやすい。	各区の計画は、全市的な未来像と主要な政策を明示した「京都市基本計画」とは同列・相互補完の関係にあります。市の計画でお示ししている政策を各区の特性を踏まえ、より具体的に深化させたものが各区の計画であり、中京区におきましても区の将来像やまちづくりの目標を区民の皆さんや事業者、大学等と共有し、まちづくりを進めていくために必要なものと考えております。

・計画の進捗管理に当たっては、行政から市民への押し付けになってはいけないので、自治会や町内会等が主体的に取り組む部分については、目標設定はすべきでないが、行政が主体となる取組については数値目標を示してほしい。 ・これまでの成果や中京区の属性、各施策の目標など、できるだけ数値化した方がわかりやすい。	本計画は、全市的な未来像と主要な政策を明示した「京都市基本計画」とは同列・相互補完の関係にあります。本計画に記載している各施策及び市の計画に掲げる各施策は、各関係部局と一体となって推進していきます。京都市基本計画では、前年度の実施状況の公表や政策評価制度により政策の達成度を評価し、進捗を確認していきます。また、区基本計画においても、第1章「まちの姿」に記載している数値データ等もモニタリングしながら、自治会をはじめとした区内でまちづくりに取り組んでいる関係団体で構成する「中京区基本計画推進会議」を設置し、計画の実現を着実なものとしてまいります。
・中京マチビト café で出した意見が反映されている。環境や文化を重視していくべき。 ・市民参加型はよい。 ・高齢者の意見よりもこれからの未来を担う若者の意見を聞いて、中京区の特徴をいかした計画になってほしい。	本計画は、「共汗型計画」であり、策定に際しては、若者から高齢者の方まで、多様な区民の皆さんの声を直接反映させるため、中京マチビトCafé 特別編「マチビト×中京の未来予想図」の開催、素案への区民意見募集、最終案へのパブリックコメントの実施など、策定の各段階において区民の皆さんに積極的に参画していただきました。その結果、環境や文化の視点等も含めた3つの「めざすべき将来像」を、今後のまちづくりの方向性として記載しています。

- 各戦略に記載のある「支援」や「促進」は具体的にどのように進めるのか。 - 情報発信の支援や促進は、具体的にどのような方法で行っていくのかがよく分からない。	「共汗型計画」である本計画に掲げるすべての施策は、区民の皆さんや事業者、大学等と行政がそれぞれの役割を認識し、連携しながら進めることを前提としており、地域をよりよいものとするため、自治活動をはじめとしたまちづくり活動に積極的に参加いただくことが期待されます。そして区役所には、区民活動が行われる基盤づくりや活動への「支援」が求められていると認識しています。 各戦略に記載する「支援」や「促進」は、たとえば自治活動の分野では、自治活動をよりよいものとするため、SNS等を導入しようとしている自治会のIT化を支援するほか、自治会への加入促進のため、活動内容等を区役所でも情報発信する等の取組を進めてまいります。

第1章（まちの姿）及び第2章（まちづくりの課題）に関する御意見

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
1章のまちの姿は、さまざまなデータがあり興味深い。多くのひとが知っておいた方がいい情報である。わかりやすくするため、グラフや表をとりいれたほうがよい。 - 中京区は全国的にも出生率が低い。現状を認識するためにも計画に書き込むべき。 - まちの姿に記載している内容は、データがないため、本当に特徴といえるのか判断できない。	計画冊子の巻末に「資料編」を追加し、「まちの姿」に関連する統計データを記載します。

・中京区にはたくさんの会社がある。企業市民といえるような会社がまちおこしに参加していることを中京区の特徴として書いた方がいい。 ・企業もまちづくりに参加している。	御指摘のとおり、中京区では地域に根差し活動する企業がたくさんあり、文化財の保存や祭りなど、文化の継承等にも深くかかわっています。 第1章「まちの姿」の中京を取り巻く状況と特徴に掲げている「多くの文化財を有する歴史と文化のまち」に「区民や事業者等の手によって」との文言を追加し、その項目全体を「また、多くの地域では、<u>区民や事業者等の手によって</u>神事である祇園祭をはじめ、奉祝行事として始まった時代祭や京都の伝統行事である地蔵盆等の祭りや行事が活発に行われています。」に修正します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・1章の「まちの姿」は納得した。河原町辺りが目立つが、西側は平安京の中心地である。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、中京区では地域ごとに歴史や特徴があり、自治活動の基盤にもなっています。今後とも、本計画に基づき、こうした地域の特色をいかしたまちづくりを進めてまいります。
・まちなかでも高齢化が進んでおり、高齢者向けの取組も必要になっていることがわかった。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、市全体よりも低いものの、中京区でも高齢化は進んでいます。そして、第2章「まちづくりの課題」重点課題1「地域交流の促進」に記載しておりますとおり、少子化や長寿化、核家族化といった家族形態の変化等を背景に、地域のつながりの希薄化や福祉的課題の複雑化・複合化、子育て家庭の孤立化等が大きな課題となっています。計画の推進に当たっては、こうした課題を踏まえて取組を進めてまいります。

・中京区は、都会のオフィス街と、昔ながらの自治会が残る地域と、両面の顔をもっている。計画は全体として、よくできている。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、中京区は多くの企業等が集積するビジネス活動の中心であるとともに、地域コミュニティのつながりが強く、自治活動が活発に行われています。今後とも、本計画に基づき、こうした地域の特色をいかしたまちづくりを進めてまいります。
・中京には景観運動に取り組んでいるひとがたくさんいる。町家は減っているが、町並みも中京の特徴である。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、中京区では、京町家をはじめとした美しい町並み景観が保全されています。一方、京町家は年々減少していることから、今後とも、本計画に基づき、一層の保全活動に取り組んでまいります。
・中京区は、交通の便がよいだけでなく、住民に魅力があることから、仕事をするにも遊ぶにも最高のまちである。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、中京区は京都の経済を牽引する、にぎわいと華やぎのまちです。そして同時に地域コミュニティのつながりも強く、多くの歴史文化が区民の手で守られるなど、「ひと」に魅力があるまちでもあります。今後とも、本計画に基づき、こうした地域の特色をいかしたまちづくりを進めてまいります。
・文化、商業、まちの風景等はどれも中京区の魅力であり、京都、日本の魅力でもある。自分自身も府外や海外のひとにも、中京の魅力を発信していきたい。	第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、中京区には文化、商業、町並みなど、多様な魅力があります。今後とも本計画に基づき、こうした地域の特色をいかしたまちづくりを進めてまいります。
・高齢化率は平成27年時点とあるが、昨年の敬老の日に京都市の数値が発表されている。最新のデータを使って分析をはいかがでしょうか。	御指摘いただいた「昨年の敬老の日に発表している数値」は、推計人口を基に公表しております。最新の推計人口は、令和2年国勢調査結果により、後々修正される暫定値となりますので、本計画では、国勢調査の最新データとなる平成27年の数字を記載しております。

・ 京都は学生がくらしやすいまちです。	第2章「まちづくりの課題」に記載しましたとおり、中京区では、地域の方々と連携して多くの学生がまちづくりに参画し、地域に貢献しながら、自らの学びを深めています。今後とも、本計画に基づき、学生の力をまちづくりに生かしながら、同時に学生にとってもくらしやすいまちづくりを進めてまいります。
・ 市民しんぶん令和3年2月1日号にあった保育料値上げや敬老乗車証制度廃止など、財政が厳しい状況にあるとしても弱者切り捨てはやめてほしい。 ・ 敬老乗車証は元気な年寄りの増加につながり、医療費も減少する。値上げをしてでも継続してほしい。市政協力委員への賞状等はやめればよい。 ・ 敬老乗車証は、健康対策としてすぐれた制度である。無駄な事業はやめて財源を確保しなければならない。 ・ 自助と共助、公助のバランスが必要。公助をやめる場合も、代わりに共助への財政支援等が必要になる。 ・ 計画遂行にあたって税金は上がるのか。	第2章「まちづくりの課題」のトピックに記載しましたとおり、京都市の財政は危機的な状況にあり、財政の改革が喫緊の課題となっています。財政再生団体になると、急激かつ大幅な市民サービスの低下が避けられないことから、保育料の値上げや敬老乗車証の廃止も例示としてお示ししております。こうした事態を回避し、京都のまちをより素晴らしいものとして次の世代につないでいくために、中京区においてもこれまで以上に徹底した「選択と集中」、「区民の皆さんとの共汗」及び「施策の融合」を図ってまいります。
・ 財政難のなか、何でもやるわけにはいかない。無駄をなくすことが必要。計画策定自体も必要性を考えるべき。 ・ 財政難ならば区の計画をつくる必要はない。市の計画だけでもよいのではないか。	第2章「まちづくりの課題」のトピックに記載しましたとおり、京都市の財政は危機的な状況にあり、財政の改革が喫緊の課題となっています。中京区においてもこれまで以上に徹底した「選択と集中」、「区民の皆さんとの共汗」及び「施策の融合」を図ることで財源を確保し、本計画に掲げた「めざすべき将来像」の実現に向け取り組んでまいります。本計画は、今後こうした取組を進めていくうえでの指針として活用してまいります。

・元小学校等の未使用の建物や土地は、駐車場等として民間に貸し出せば財源になる。ビルの高さ制限もなくせば固定資産税の増加になる。 ・危機的な財政状況を改善する必要がある。観光客向けの市バス・地下鉄の割引等は廃止すべきである。 ・環境や防災の問題は重要であるが、すべてはできない。限られた財源を上手く使う必要がある。 ・財政危機のなか、これだけ多くのことを本当にやれるのか疑問である。 ・実現可能なのか。 ・計画案には多くの意欲的な取組が記載されているが、この5年間は財政的制約から、さらなる思い切った選択と集中が必要である。認識が甘い。 ・財源確保してほしい。 ・緑化と美化，古きよき時代を取り戻す，安心・安全の優しい活動，商環境の向上，子供や弱者をいたわる心等はまちがいなく必要な中京区の指針である。しかし，スポーツ事業など，不急不要のもの，行政や地域がそこまで注力しなくてもよいものもある。 ・京都市の財務状況が厳しく，財政再生団体へ転落するという見通しがコロナ禍で加速している。コロナ禍を契機に行政に頼るべきもの，頼らない方がよいものが少しずつ分かってきた。できることからムダをなくし，地域活動を再考し，よりよい中京区のまちづくりのため，背景となる財政問題を一個人も意識しなければならない。	第2章「まちづくりの課題」のトピックに記載しましたとおり，京都市の財政は危機的な状況にあり，財政の改革が喫緊の課題となっています。いただいた御意見も参考に，中京区においてもこれまで以上に徹底した「選択と集中」，「区民の皆さんとの共汗」及び「施策の融合」を図ることで財源を確保し，本計画に掲げた「めざすべき将来像」の実現に向け取り組んでまいります。

第3章（今後のまちづくりの方向性）に関する御意見

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
第3章冒頭部分の「その結果、中京区基本計画（第2期）の計画期間の10年間で大きくまちづくりが進展しています。」について、分かりやすくするために、その点を具体的に示してほしい。	御指摘のとおり、本計画は、これまでの1期や2期の成果を踏まえて策定しています。冒頭部分に、これまでの具体的な成果として、区民の自主的な活動の誕生に関する記述を追加し、「その結果、中京区基本計画（第2期）の計画期間の10年間には、<u>中京マチビトCaféに延べ2,735人が集うとともに、そこからまちづくり支援事業（補助金交付）139本をはじめ多くの区民の自主的な活動が生まれるなど</u>、大きくまちづくりが進展しています。」に修正します。
- 持続可能、SDGsに今取り組むべき。 - SDGsをめざしてほしい。	御指摘のとおり、持続可能な世界をめざす「SDGs」は大変重要なキーワードであり、本計画で取り組む3つの「めざすべき将来像」やこれらを実現させるための具体策として設定する7つの「まちづくり戦略」に取り組むうえでも、深くかかわっていると認識しています。より「SDGs」の重要度をお伝えすることができるよう、冒頭の部分にSDGsに関する詳細な説明を追加します。

・中京の魅力は、歴史・文化とテクノロジーやスタートアップ等時代の最先端の両面がある点である。将来像2に、歴史と最先端が交わるまちであるという点を加えてはどうか。 ・文化を感じるまちづくりは継続してほしい。ICT と文化の融合したまちになっていることを期待したい。 ・歴史・文化・伝統と先端技術が融合した魅力ある、住人にやさしいまちになってほしい。 ・中京区ならではの伝統と新しいまちづくりを融合した取組を行ってほしい。 ・京都といえば、伝統等古来のものは既に認識されている。まちの活性化には改革が必要である。 ・新しい技術と歴史あるまちなかが融合した光り輝くまちになってほしい。 ・中京区は、京都の中心として、伝統を残し、かつ若者の交流の場として最先端を歩むまちであってほしい。学生の協力も得ながらIoT等も率先して利用し、「現代風」のまちの活性化を行ってほしい。	御指摘のとおり、中京区は、伝統行事やくらしの文化、歴史的な景観等の文化資源の宝庫であるとともに、IoT や AI、情報通信分野のスタートアップも立地する歴史と最先端の技術等が交わるまちであると認識しています。 将来像2の「地域個性の継承と創造」の説明に、「IoT等の最先端技術も積極的に活用」との文言を追加し、「地域ごとの豊富な歴史的・文化的資源を守り、次世代へ継承するとともに、IoT等の最先端技術も積極的に活用しながら地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでいきます。」に修正します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・中京区がより生活しやすくなるようまちづくりを進めてほしい。 ・くらしやすいまちになるよう、取り組んでほしい。 ・明るく住みよいまちになってほしい。 ・住みやすいまちになってほしい。中京マチビト Café や中京ベビーズサポートマーケット、屋上緑化の取組など、どれも素敵な活動である。今後も応援したい。 ・ひとに優しいまちづくりを進めてほしい。	第3期となる本計画においては、これまでの取組のよい点を継承していただくだけでなく、中京区を取り巻く状況が急速に変化していることを再認識し、新しい社会像や価値の創造に向かって、区民の皆さんとともに歩んでいくことが重要であると認識しています。 まちづくりの目標として掲げた「響きあう 人・まち・文化 中京区」をめざし、計画を推進してまいります。

(*) ・他の区に負けないよう、先駆けの心で進めてほしい。	
・今後のまちづくりの方向性はよいと思う。地域住民のためのまちづくりをよろしく願います。 ・計画の方向性はあっている。 ・今後のまちづくりの方向性は今の時代にあっている。 ・今後のまちづくりの方向性を定めることは重要である。 ・コロナ禍でオンラインが増えた。ICT社会の進展を実感する。 ・理想の将来像に向かって取り組んでいくにあたり、コロナや災害の多発、SDGSを前提としていくことは重要である。 ・ポストコロナを見据えた持続可能なまちづくりに努める姿勢を今後も続けてほしい。 ・素晴らしい未来像である。 ・7つのまちづくり戦略は、地域のつながりを大切にするという着眼点をもって作成されている点が印象的である。 ・7つのまちづくり戦略に全ての分野の取組が網羅されていてよいと思う。 ・満遍なく必要な取組が網羅されている。 ・戦略を7つに分けているのはわかりやすい。	地球温暖化や人口減少、新型コロナウイルス感染症をはじめとするさまざまな危機と対峙する新たな時代背景において、重要なキーワードである「SDGs」や「レジリエンス」、さらには厳しい財政状況も踏まえ、3つの「めざすべき将来像」と、これらを実現させるための具体策として、7つの「まちづくり戦略」を設定しています。計画の具体化に当たっては、各戦略を個々に進めるだけでなく、互いに関連させ、一体となった推進をめざしてまいります。
・全て必要な事項だと思うが、重点項目に特化した方が実施しやすいと思う。 ・重点が多すぎて、何が重点なのかわからない。 ・まちづくり戦略が多く、重点ポイントが見えにくい。戦略は相互にかかわると思う。 ・戦略等が多くなっているが、書いていないよりはいいので、仕方がないと思う。必要	地球温暖化や人口減少、新型コロナウイルス感染症をはじめとするさまざまな危機と対峙する新たな時代背景において、重要なキーワードである「SDGs」や「レジリエンス」、さらには厳しい財政状況も踏まえ、3つの「めざすべき将来像」と、これらを実現させるための具体策として、7つの「まちづくり戦略」を設定しています。

な時に必要な部分を読めばいい。	計画の具体化に当たっては、御意見も踏まえ、ポイントを絞りながら、より効果的に3つの「重点課題」の解決につながるよう、各戦略を個々に進めるだけでなく、互いに関連させ、一体となった推進をめざしてまいります。
・将来像2が幅広すぎる。地域の個性を活かすのは当たり前だが、どんな個性を活かすのかを明確にしたほうがよい。 ・どこのまちにでも当てはまる内容である。	中京区には、第1章「まちの姿」に記載しましたとおり、元離宮二条城をはじめとした多くの文化財や地域で行われている祭りや行事、個性ある通りの文化や京町家等の町並み、さらには商業、伝統産業、スタートアップの集積など、多くの特徴がありこれらが地域の個性であると認識しています。将来像2では、こうした地域の個性を継承、創造するまちづくりをめざしてまいります。
・安心・安全、明るい、清潔、文化度が高い、地域のつながりが感じられる等のコンセプトをさらに高め、京都市の中心に位置することをいかした高度な生活空間をもちながら、商工業の事業者の方々とも共存できるまちをめざしたい。 ・まちづくりの中心はひとである。子どもからお年寄りまで、健康でいきいきとくらし活動しているまち、訪れる人が元気をもらえるようなまちになってほしい。 ・お住まいの方、働いている方が愛着をもち、帰属心をもつまちになってほしい。 ・みんなが平和に暮らせるまちが続けばよい。 ・子育て、介護がしやすく、それらと仕事が両立できる理解のあるまちになってほしい。 ・中京区が独自性を出すために、環境や文化芸術を強く意識したまちであってほしい。 ・文化と都市機能と緑が共存するところにな	地球温暖化や人口減少、新型コロナウイルス感染症をはじめとするさまざまな危機と対峙する新たな時代背景において、重要なキーワードである「SDGs」や「レジリエンス」、さらには厳しい財政状況も踏まえ、3つの「めざすべき将来像」と、これらを実現させるための具体策として、7つの「まちづくり戦略」を設定しています。 計画の具体化に当たっては、ひとを主役に、安心・安全、文化等さまざまな分野のまちづくりを互いに関連させ、一体となった推進をめざしてまいります。

ってほしい。 ・安心, 環境, 経済対策に取り組んでほしい。 ・基本的にどのポイントや項目についても素晴らしい。お年寄りや子育て家庭等を幅広く支援する方針はわかりやすい。地域ごとの歴史文化, 商い, ものづくりを基にしたまちづくりは, 伝統産業以外の面からもアプローチができる。学区や町内といったコミュニティで, 他の都道府県からのひとや外国人のサポートについても考える必要がある。	
・京都の魅力は観光や学生のまちではない。住んでよかったと思える今日時点の魅力づくりが, 我々に課せられた課題である。 ・どの戦略も重要でつながっている。子どもの教育に着目して進めれば, テーマが横断的になり, 比較的進めやすいのではないか。 ・さまざまな分野について, 真摯に計画を立てている点に感心した。お年寄りに対する犯罪対策や苦学生への支援等にも取り組んでほしい。 ・郊外のようなのんびり散歩できる自然のあるまち, 商店街が活気のあるまま残るまちになってほしい。自動車交通量も減少してほしい。 ・雨庭や街路樹の豊かな景観, 歩いて安全な美しいまち, みつばちの暮らしやすい優しいまちになってほしい。 ・親兄弟, 隣人, 皆に思いやりの心が必要である。お互いわきまえて協力すればたいはいのことは解決する。ポイ捨てや犯罪のないまちをめざしてほしい。	第1章「まちの姿」や第2章「まちづくりの課題」に記載しましたとおり, 中京区には「地域コミュニティのつながりが強いまち」をはじめ多くの特徴があり, これらをかしたまちづくりを進めていくことが必要であると認識しています。 計画の具体化に当たっては, さまざまな分野のまちづくりを進めるため, 各戦略を個々に進めるだけではなく, 互いに関連させ, 一体となった推進をめざしてまいります。

・少子高齢化や核家族化をはじめとした家族形態の変化，住民同士のつながりの希薄化など，社会情勢や地域を取り巻く環境が大きく変化しているなかで，どのような対策をすべきなのかなど，より具体的な計画を作成することが必要である。 ・全体的に具体性に欠ける。目的，背景，取り組まなければならない理由，方法，数値を明記した方が，より中京区がめざす方向も分かりやすい。 ・全体を通じて表現が抽象的である。	第2章「まちづくりの課題」の重点課題1「地域交流の促進」に記載しましたとおり，近年は少子化や長寿化，核家族化といった家族形態の変化等を背景に，地域のつながりの希薄化や福祉的課題の複雑化・複合化，子育て家庭の孤立化等が大きな課題となっています。「新しい生活スタイル」にもしっかり対応しながら，地域コミュニティの活性化や地域共生社会の実現，教育・子育ての支援など，地域交流の促進に取り組んでいくことが急務となっていると認識しています。本計画ではこうした状況も踏まえ，3つの「めざすべき将来像」と，これらを実現させるための具体策として，7つの「まちづくり戦略」を設定しています。少子高齢化問題をはじめまちづくりの課題は相互に関連しているため，計画の具体化に当たっては，さまざまな分野のまちづくりを進めるため，各戦略を個々に進めるだけでなく，互いに関連させ，一体となった推進をめざしてまいります。

・新型コロナなど、新たな課題への対応を含めて、第3期において新たに取り組もうとしているものは何なのかを伝えてほしい。これまでやってきたことをそのまま継続あるいは充実してやっていくのか、それとも新たに組み立てていこうと考えられているものなのかがわからない。	本計画では、これまでの成果を踏まえながら、さらに地球温暖化や人口減少、新型コロナウイルス感染症をはじめとするさまざまな危機と対峙する新たな時代背景において、重要なキーワードである「SDGs」や「レジリエンス」、さらには厳しい財政状況も踏まえ、3つの「めざすべき将来像」と、これらを実現させるための具体策として、「目標実現に向けた戦略」として7つの「まちづくり戦略」を設定しています。 この戦略の内容は、地域コミュニティの活性化など、まちづくりを進めていくうえで重要なポイントについて、第2期計画の「まちづくり戦略」から継承しておりますが、今日的な視点を加えて、すべて見直し、再編しております。

・コロナ禍で人が集まることは難しくなったが、早く集まれるようになってほしい。 ・コロナが収束し、安全にらせるようにしてほしい。ワクチン接種をしっかりと進めてほしい。 ・コロナ禍以前のような地域のふれあいやまちのにぎわいが戻り、中京区で育った子どもたちが中京区に住み続けたいと思うまちとなるよう、地域のためにできることに取り組みたい。 ・課題はたくさんあるが、優先順位をつけて、コロナ禍において経済的に貧困に陥る子どもや高齢者の救済を早急をお願いしたい。 ・コロナで苦しい会社が多い。寄り添った対応、助け合いが必要である。授産製品も知られていないので、もっとアピールするなど、地道な取組が必要である。 ・コロナ禍で商店街も伝統産業も飲食店も困っている。各企業で対応するとコストがかかるので、区でお店を紹介するホームページをつくってはどうか。若者が伝統産業に従事したい、親の跡を継ぎたいと思えるような支援も必要である。一方、コロナを言い訳にした無駄な支出はやめてほしい。ばら撒きではなく、税制を支える就労・子育て世帯を保育所で支えるべき。 ・コロナについて安心感を感じられる報道や広報を広げてほしい。 ・コロナ・ワクチンへの関心が非常に高いなか、市民しんぶんやラインなど、京都市はさまざまな方法で情報発信しておりありがたい。しかしスマホに不慣れな高齢者のなかには、対応する医療機関がわからず不安を募らせているひともいる。市民しんぶんにもワクチン接種の予約ができる医療	新型コロナウイルスへの対応については、市民、事業者の皆さんと危機感を共有し、命と健康、暮らしを守るため、感染予防や生活支援、経済対策等に、全庁を挙げて取り組んでおり、区役所でもワクチン接種会場の運営や授産製品の紹介をはじめ厳しい状況におかれている事業者への支援、感染対策の徹底に関する情報発信等に取り組んでおります。いただいた御意見も参考にしながら、一日も早い新型コロナウイルスの収束に向け、今後もスピード感をもって全力で取り組んでまいります。 なお、本計画については、ICT化の加速など、新型コロナウイルスの蔓延により変化した社会状況も踏まえながら内容を検討しています。そしてさらに今後起こりうる脅威に対しても、区民の皆さんとともに考え、取組を進めることで、それらに柔軟に対応していくことが欠かせないと考えております。区役所ではこうしたことを念頭に、今後もその時々により必要となる区民活動が行われる基盤づくりや活動への支援ができるよう進めてまいります。

機関名と連絡先等を掲載してはどうか。

- ワクチン接種の先が全く見えない。国の行き当たりばったりの対応に腹が立つ。世界から取り残されないよう、ワクチン接種を早くしてほしい。
- 京都には大本山と言われる大きなお寺がいくつもある。会場難と言われている中、お堂でワクチンの接種をお願いしてはどうか。
- コロナが収まらない場合でもこれらの施策は継続していくのか、もしくは修正を行っていくのかが不透明である。
- あと1年でコロナが大丈夫な世の中になってほしい。
- ICT 社会の推進がさまざまな課題を解決するためのカギになると思うが、ICT 社会の推進についてまちづくり戦略ではあまり触れられていない。
- コロナ禍により、わたし達のくらしは大きく変わってしまった。コロナ禍のあとのくらしのなかで、リモートの会議や在宅勤務等の変化をどう生かしていくのか、ということ盛り込んでほしい。
- コロナ禍のなか、社会の変化とどう関わっていくかが重要である。スマートフォン講座等はコロナ禍以前から言われていることであり、特別な対策とはいえないのではないか。
- ポストコロナ社会とはどのような社会を想定しているのか説明が必要である。ICT の活用等が強調されているが、例えば、感染しても重症化しないように免疫力の向上等の取組も考えられる。

・大学のまち京都の特性をいかし、定住人口増やオフィス不足の解消に向けた検討を京都市と共に取り組むべき。 ・出生率を高めるために京都市と連携し、子育て支援を進め、人口が多く活気のあるまちにしてほしい。 ・若い世代が住めるように家賃が安い住居等が増えてほしい。 ・中京区に引っ越す可能性があるが、地価が高そうなイメージがある。補助金や相談できるコミュニティ、待機児童ゼロなど、子育てがしやすい地域であってほしい。 ・若いひと達が市内に住むなら中京区がよいと思ってもらえる住みやすいまちになってほしい。 ・中京区は事業所が多いため、居住に関してはイメージしにくい。御所南小学校等の知名度もあり、子育て世帯は居住を選択するかもしれないが、単身世帯にもアピールできればよい。 ・高齢化社会が進むなか、若いひとにいかにか集まってもらえるか、住んでもらえるかについて検討した方がいい。	第1章「まちの姿」の「人口の増加が鈍化する一方、長寿化が進み、単独世帯が増えるまち」に記載しましたとおり、中京区では近年人口増加が続いてきましたが、最近では鈍化しています。人口減少社会の到来は、地球温暖化や新型コロナウイルス感染症をはじめとするさまざまな危機と同様に、本計画を策定するうえで踏まえるべき大きな課題であり、定住人口増加の取組は大変重要であると認識しています。いただいた御意見も参考に、子育て環境の充実や地域内雇用の促進など、「まちづくり戦略」に掲げた取組を推進してまいります。

第4章（目標実現に向けた戦略）に関する御意見

【戦略1：ポストコロナ社会に対応した柔軟で開かれた地域組織づくり】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・高齢者向けのスマホ講座はありがたい。Wi-Fi スポット設置など、町内会の IT 化支援も検討してほしい。 ・SNS 等を活用した自治会・町内会の情報発信は、時間や場所を問わず情報を入手できるので、事業への参加者の増加や、意見の集約など、地域活動が活発になる。主要な取組にある高齢者へのスマートフォンの操作支援は必要である。ぜひ取り組んでほしい。	御指摘のとおり、開かれた地域組織づくりや地域情報の発信力強化に向け、町内会も IT 化し、SNS 等を積極的に活用していくことが重要であると認識しています。 ①「開かれた地域組織づくりと新しい地域活動の模索」の主要な取組の「地域活動におけるスマートフォン活用講座等の開催」を「スマートフォン活用や Wi-Fi 設置相談など、地域活動における IT 化の支援」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・地域のつながりはまちづくりの重要な基盤のひとつである。地域コミュニティの活性化は今後も継続してほしい。 ・地域、隣近所の交流は必要である。 ・地域のつながりを大切に、支え合えるまちになってほしい。 ・地域のあらゆる主体が常に近い距離でまちづくりに参画できる、開かれたまちになってほしい。	リード文に記載しましたとおり、中京区は、地域住民が主体的にまちづくりに取り組むという自治意識を脈々と受け継いでいます。中京区の住民自治の歴史と伝統のなかで培われた「地域力」を未来に引き継いでいくことが重要であると認識しています。 今後とも、本計画に基づき、地域コミュニティの活性化を推進してまいります。

・ポストコロナ社会に対応した柔軟で開かれた地域組織づくりを中京マチビト Café でとりあげてほしい。（＊）	リード文に記載しましたとおり、中京区は、地域住民が主体的にまちづくりに取り組むという自治意識を脈々と受け継いでいます。中京区の住民自治の歴史と伝統のなかで培われた「地域力」を未来に引き継いでいくことが重要であると認識しています。 今後とも中京マチビト Café をはじめ、区民の皆さんや事業者、大学等と議論を深め、連携しながらポストコロナ社会に対応した柔軟で開かれた地域組織づくりに向け取組を進めてまいります。
・夫が町内会の役員やお祭りのリーダー等を20年近く務めている。しかし、懸命に地域活動に従事してもほとんどの人に理解されず、協力をお願いしても迷惑がられているのが現状であり、将来的に中京のまちのつながりはなくなってしまうことを危惧している。そうならないために全ての中京区民に基本計画を読んでもらいたい。 ・学区の老人会や婦人会がなくなり淋しく思っている。今後も地域のなかでできることを少しでもお手伝いしたい。	リード文に記載しましたとおり、中京区は、地域住民が主体的にまちづくりに取り組むという自治意識を脈々と受け継いできましたが、近年はひととひとのつながりが希薄になりつつあり、地域コミュニティへの参加が減少しています。 大変な御苦勞をされながら、地域をよりよいものとするため長年活動いただいている皆さんの御努力が報われるよう、自治会・町内会の活動を支援し、地域コミュニティの活性化を推進してまいります。 なお、本計画の冊子は広く区民の皆さんに周知できるよう、読みやすく分かりやすいものをめざしてまいります。

- 区内で行われている活動がさまざまな形で表現され、市民しんぶんや回覧板を見なくても中京区の活動がより見えるようになればよい。 - 自治会の役割や地域活動について、回覧や掲示板以外の方法でもっと効果的に PR する必要がある。	①「開かれた地域組織づくりと新しい地域活動の模索」に記載しましたとおり、持続可能で活力あるまちづくりをめざして、開かれた地域組織づくりや地域情報の発信力強化に向けたさまざまな取組を支援していくことが重要です。 ICT（情報通信技術）も積極的に活用した新しい地域活動を支援するため、主要な取組の「自治会等の活動内容や地域の魅力等の情報発信の支援」等に取り組んでまいります。
SNS は自分の居心地のよいコミュニティが形成されやすい。地域に関わりのないひとは、教えられたとしてもなかなか見ない。この点を踏まえた取組が必要である。	①「開かれた地域組織づくりと新しい地域活動の模索」に記載しましたとおり、持続可能で活力あるまちづくりをめざして、開かれた地域組織づくりや地域情報の発信力強化に向けたさまざまな取組を支援していくことが重要です。 SNS の効果的な活用も検討しながら、主要な取組の「自治会等の活動内容や地域の魅力等の情報発信の支援」等に取り組んでまいります。
- まちの課題を見出し、それを改善していく形で目標を定められている点はよい。特にSDGs に率先して取り組んでいく点は大きな意義がある。一方、コロナ禍の現状では、交流を活発にするというのは考えにくく、アフターコロナについても考える余裕がないというのが現状ではないか。 - 大変素晴らしい計画であるが、現在のコロナ禍ではコミュニケーションが取りづらい。今後も新型コロナウイルスに変わる感染症が流行する可能性もあるので、オンラインでのコミュニケーションの場を創出したり、ICT を活用した交流の場を設ける施策を期待したい。 - ICT 社会への対応に5年もかけるのは長す	①「開かれた地域組織づくりと新しい地域活動の模索」に記載しましたとおり、持続可能で活力あるまちづくりをめざして、開かれた地域組織づくりや地域情報の発信力を強化していくことが重要です。 ポストコロナも見据えつつ、地域活動の継続と新しい地域活動につながるよう、主要な取組の「スマートフォン活用や Wi-Fi 設置相談など、地域活動における IT 化の支援」等に取り組んでまいります。

ぎる。	
・町内会の必要性を若い人に説明する必要がある。現状、地蔵盆くらいしか地域の人と会わないので、お金を取られて役が回ってくるだけの面倒なものに思える。 ・地域活動に参加しようとする、仕事やプライベートの時間を削る必要があり、個人的にはそこまでするメリットを感じない。どのように興味をもたせ、誘っていくのが気になる。 ・町内会に入るメリットやデメリットを示すべきである。災害時は加入の有無にかかわらず等しく助けを受けられるようにすべきである。 ・仕事の忙しい単身世帯は、町内会や自治会に入るのが難しい。京都市からの情報は町内会加入の有無にかかわらず提供されるべきである。 ・町内会は任意の団体であるが、条例の後押しのため、強制加入となっている。町会長は市政協力委員を兼ねることから、市民しんぶんの配布等もあり負担が大きい。市民しんぶんは、オンラインで十分である。コロナ禍で町内会のイベントがなく助かっている。納税の義務を果たしている市民が、休日や自分の時間を自由にゆったり過ごせるようにしてほしいので、条例はやめ、強制加入をやめてほしい。自治会がないまちづくりをしてほしい。 ・若い世代が町内会や自治会に入らなくてもよいまちになってほしい。町内会に入らないと悪評がつく。若い世代は考え方や生活スタイルが違うことを理解すべきである。 ・マンションのなかには管理組合しかなく自治会がない。あった方がよいがなかなかマンション内で理解されない。もっと必要性	②「自治会・町内会への加入率の向上」に記載しましたとおり、自治会・町内会に加入する意義や加入してよかった点等の事例をわかりやすく発信することが重要です。 自治会等は、地域コミュニティの基盤として豊かで安心してくらせるまちを築くために不可欠であり、行政の支援が不足する災害時など、自助・共助が必要となる場面で大きな役割を果たしています。自治会・町内会への加入と地域活動への参加の促進を図るため、主要な取組の「自治会等の役割や地域活動についての効果的なPRの実施」等に取り組んでまいります。

について広報してほしい。 ・自治会に加入していない住民が、加入している住民と交流をもちたいと思っているのか疑問である。自治会とつながりたいがきっかけがないだけなのか、そもそも地域コミュニティを求めているのか、それぞれに的確なアプローチをすることが重要である。 ・まちの活動がカッコいいということが流行になれば活性化するかもしれない。全国の自治体が少しずつ費用を出して人気俳優や脚本家を使ってドラマをつくる等は面白いかもしれない。	
・町内会が活動のベースになる。区も支援してほしい。 ・現状は厳しいが、町内会活動は続けていきたい。 ・地域活動について多くのひとはわかっているが、魅力を感じないから積極的に参加していない。幅広い年齢の方を集めるには、講演会やイベント等がよいが、かなり労力を要するので、サポートするシステムも必要である。熱意があり、目的意識のあるひとを中心にしてまとまっている組織を時間をかけてつくっていくことが大切である。 ・安心・安全はもちろん、地域のひとびとが楽しく顔を合わせて挨拶しあえるまちの環境づくりが重要である。新しいコミュニケーションの場づくりとして、古民家（空き家）の前に床几をおいて団らんの場にするのもよい。昔ながらの風情であり、各町内で管理していくことが必要である。 ・きれいなまち、誰もが住みやすいまちになってほしい。町内会の集まりに皆が参加してほしい。	②「自治会・町内会への加入率の向上」に記載しましたとおり、地域コミュニティの基盤となる自治会・町内会に加入する意義や加入してよかった点等の事例をわかりやすく発信することが求められています。 自治会・町内会への加入と地域活動への参加の促進を図るため、主要な取組の「自治会・町内会の加入率向上や地域コミュニティへの参加促進に向けた取組への支援」等に取り組んでまいります。

・防災意識で連帯しつつ、普段からゆるやかに地域の行事にも参加でき、お互いに協力ができるまちになるとよい。	
・最近ではマンションだけでなく個人住宅の住民の方も地域に入るのを拒否される傾向が強まっている。地域社会の高齢化が一層深刻となり、地域の活動力が大きく低下している。地域社会の活性化には、マンションと地域との対話や交流の場を構築する必要がある。行政の仲介も含め、防災や小学生の見守り活動等で協同できればよい。 ・自治会のないマンション等がますます増える。小さな子どものいる家庭へ積極的に情報を発信できるよう、マンションの理事会や管理会社、保育園や学校に声掛けをもっとしていったほうがよい。住んでいるマンションが自治会に加入していなくても、個々の家庭で気軽に加入できる窓口があれば加入をすすめやすいのではないか。 ・地域の交流が複雑化しているなか、だれでも理解できる組織づくりが必要である。窓口を一本化するだけで若者の町内会加入へのハードルも下がる。 ・地域活動は大切である。移住してきたひとが馴染みやすいよう、丁寧に説明するなど、受け入れる側の努力も必要である。 ・京都人は閉鎖的と言われるが、京都の文化風習を知り、継承してほしいという思いをもっている。他から移り住んできたひとに、京都を知ってもらい、京都人になっていただけるようなお付き合いができるまちになってほしい。 ・マンション居住者にもお祭り、スポーツ大会、各種交流会等地域の取組の情報が届くようになれば、地域活動への参加が増える	③「居住形態を超えた地域交流の促進」に記載しましたとおり、居住形態にかかわらず、だれもがご近所との付き合いの大切さを再認識し、地域のまちづくりに積極的に参加したくなるような取組への支援が重要です。 地域コミュニティの活性化を推進するため、主要な取組の「自治会等に加入していない住民と加入している住民の交流事業への支援」等に取り組んでまいります。

のではないか。

- ・町内に大きなマンションがある。町費は戸建ての家の半額にしている代わりに運動会や地蔵盆，リクレーション等には誘っていない。もっと交流をもったほうがよいと考えている。
- ・住んでいるマンションでは自治会がなく，マンション内，地域の方々とも交流はなく，市民しんぶんも届かない。不安もあり，コミュニティが大切だと思っている。何とかならないか。
- ・自身の集合住宅には自治会がなく，地域の自治会に集合住宅の住民が入ることも認められていない。市民しんぶんは配られているが，地域の情報は全然入ってこない。自治会活動に参加するにも，そもそも入り方がわからない。
- ・マンションは増えているが，人口が増えている実感はない。マンションが増えると，地域とのつながりが昔と変わってしまうのではないかと不安を感じる。
- ・社寺仏閣や地蔵盆等の地域行事は地域住民の手で支えられている。地域活動に参加しない住民が増加すると維持が出来なくなるが，一方で，新たな参加者が急激に増えると一気に伝統が失われることもあるため，緩やかに増えていくことが望ましい。
- ・新住民だけのまちにならないよう，旧住民にとっても住みやすいまちになってほしい。
- ・中京区は，地域の結び付きが強く，入り込めない雰囲気が未だにある。若い人がどんどん参加できるコミュニティであってほしい。
- ・ひととひとのつながりを大切に，他の地域のひとも受け入れるような地域のなかで

支え合い、排他的でないまちであってほしい。 ・中京区には京都の中心として開かれたまちになってほしい。地域外のひとが何かしようとしたときに見守るぐらいの寛容さもほしい。	
・自治会・町内会への加入に向けた地域とマンション等の開発業者との連携の促進はよいことである。マンションの人は孤立しやすいので、地域とマンションと一緒に活動していけば孤立を防ぐことができる。 ・コロナ禍で、ホテルからマンションへの転換が増加しているが、一般的にマンション居住者の町内会への加入率は低い。自治会・町内会の役員のみならず手がないうえ、このままでは地域コミュニティの存続が危ぶまれている現状は続いていく。まちづくり戦略に期待したい。少しずつでもよいので着実に進めてほしい。 ・自治連活動に参加している住民と参加しない住民がおり、地域交流がなくなってきている。マンション所有者等への管理や地域参加についての規制・指導が必要である。	③「居住形態を超えた地域交流の促進」に記載しましたとおり、居住形態にかかわらず、だれもがご近所との付き合いの大切さを再認識し、地域のまちづくりに積極的に参加したくなるような取組への支援が重要です。 居住形態を超えた地域交流を促進するため、主要な取組の「自治会・町内会への加入に向けた地域とマンション等の開発事業者との連携の促進」等に取り組んでまいります。
・高齢者でもできるグラウンドゴルフなど、学区の体育振興会の活動をもっと宣伝すれば、コミュニティの活性化につながる。 ・自身の地元と比べ、中京区は地域で気軽に相談できる地元の役員さんがおられるなど、雰囲気がよい。福祉、健康、文化、スポーツなど、すべての面で情報がオープンになっておりうらやましい。 ・社会構造の変化から地縁での繋がりの希薄化により活動するひとの固定化はある程度仕方ない部分がある。一方、普段の生活ではつながりを必要とせず、活動に積極的に参加していないひと、非常時や困っ	④「子ども・若者の地域参加と次世代の担い手の育成」に記載しましたとおり、子どもから高齢者まで、だれもが一緒に楽しく参加できるスポーツや文化活動、地域の祭り等を通して世代間交流を促進することが重要です。 世代を問わず交流ができる機会をつくるため、主要な取組の「体育振興会によるスポーツ事業や地域の文化活動への支援」等に取り組んでまいります。

た際には地域にアクセスできるよう、世代間交流の場や、子育てサロンへの支援、クーチャーセンターといった取組を進めることはよいと思う。 ・地域との関わりは全くない。年齢を問わずくつろげる公園があるとよい。	
・運営費も含め、地域で行われる音楽やダンス等の活動を支援してほしい。 ・若者やボランティア、NPO が活動しやすいよう助成金があればよい。 ・自治会・町内会の活動以外にもさまざまな世代の方と交流できる場はすばらしい。交流・ふれあいの場が広がってほしい。 ・自治会など、人のつながりが少なくなるなか、既存の形や地域に関係なく、色々なコミュニティや居場所ができればよい。	④「子ども・若者の地域参加と次世代の担い手の育成」に記載しましたとおり、子どもから高齢者まで、だれもが一緒に楽しく参加できるスポーツや文化活動、地域の祭り等を通して世代間交流を促進することが重要です。 まちづくり支援事業による支援も含め、主要な取組の「体育振興会によるスポーツ事業や地域の文化活動への支援」等に取り組んでまいります。
・若い世代は自治会活動への参加が少なく、自治会の高齢化の要因にもなっている。小さい頃から地域活動に参加し、それが普通だという認識をもってもらいたい。地域活動の楽しさを感じ取ってもらえるよう、中学や高校の段階でも区の基本計画やふれあいまつりなど、大きな事業に参加すれば、自らの行動が未来につながることを経験できる。 ・地域交流を促進していくことで、若いひとにも地域組織の周知ができています。地域のイベントが活発なまちになってほしい。 ・中京は学生やひとり暮らしの方も多いため、若い方が地域活動に参加できるまちになればよい。 ・若い世代が中心となり、自らの未来のために活躍してほしい。 ・若いひと達が将来に期待をもつことができる明るいまちになってほしい。 ・地域コミュニティの弱体化を心配してい	④「子ども・若者の地域参加と次世代の担い手の育成」に記載しましたとおり、子どもから高齢者まで、だれもが一緒に楽しく参加できるスポーツや文化活動、地域の祭り等を通して世代間交流を促進することが重要です。 若者にさまざまな行事の運営に参画してもらうことで次世代の担い手を育成するため、主要な取組の「地域の歴史文化が体験できる地域の祭りや行事等への子どもや若者の参加促進」等に取り組んでまいります。

る。若いひとの地域への関心が薄れ、地域のことを率先してやろうというひとが減っている。若いひとにも地域活動に参加してもらえるような取組が必要である。

- ・子どもたちは将来の地域を担ってくれる大事な存在であり、将来的には学校や校区の見直しも必要である。地域を継続発展したいと思うようなイベントやワークショップの開催により、地域密着の意識が高まるようなことを伝えていきたい。
- ・小学生までは町内の地蔵盆等に参加していたが、中学生になると参加する機会がほとんどなくなった。若者世代が地域から完全に離れた存在になっているのではないか。10代から20代がより積極的に地域に関わるようなまちになればいい。
- ・高齢化が進み、地域の役員の仕事が重荷になっている。若い世代の自治会離れをどうするか、有効なPR方法を示してほしい。
- ・子育て世代と学生を含む青年層の地域とのつながりを創出することが重要である。QRコードの活用による地域イベントの情報発信など、参加ハードルを下げる取組が必要である。学校や学校運営協議会との協力やマンション管理会社と連携したSNS広報の強化等もよい。
- ・イベントに若者が参加するような仕組みをもっと開拓する必要がある。
- ・子ども・若者に継続的に地域参加してもらうには、安価かつ大量のエンターテインメントコンテンツが溢れる、即消費される時代においては、祭りや行事も特別なものではなく、エンターテインメントの一部と化していることを認識した方がよい。
- ・地域の若い担い手の育成が大切である。地域の取組のなかで若い人が参加しやすい

工夫や空き家のリフォーム等が重要である。	
・地域活動の担い手を増やすには、若年層から発掘するより、退職後の方々の御協力に期待するのが得策である。高齢者が地域のリーダーになることが、社会参加の機会となり、老後の生きがいや楽しみにもなる。 ・コロナの影響で自治活動に使える時間を仕事に使わざるを得なくなっている。地域活動の担い手を増やすには限界があり、行政の支援が必要である。 ・まちはひとつがつくと同時に、まちがひとつをつくる関係にあり、「まちづくり」と「ひとつづくり」は表裏一体である。人材育成が重要である点を発信していく必要がある。	⑤「新たな担い手の発掘と活躍できる場づくり」に記載しましたとおり、地域の個人が培ってきたスキルや経験等を自治会組織の運営に生かすことで、さらなる地域住民の参加を促す好循環が生まれると認識しております。 新たな担い手の発掘と活躍できる場づくりを進めていくため、主要な取組の「中京区版「地域人材バンク」など、スキルや経験等をもつひとが活躍できるしくみの検討」等に取り組んでまいります。
・色々な行事がコロナ禍をきっかけになくなってしまわないかと危惧している。町内の地蔵盆や学区の夏祭り、体育祭、餅つき等はもうできなくなるかもしれない。未来に残すためには町内や学区を越えて中京がワンチームとしてまとまることも考えていくべきである。 ・学区独自の文化は大切であり、中京区の魅力である。一方、各町内会の事業や区・市の事業と比べ、学区の事業は今後最も継続が難しいと思われる。夏祭り、体育祭、レクリエーション等の学区の行事については中京区統一の催事にすれば盛り上がり、各学区の負担も軽減される。 ・各町内会の活動を代行する、中京区全体の町内会活動を一手に担う組織があればよい。運営費も各町内会で集めるのではなく、確実に徴収するには区で行ってもよい。	⑥「地域組織の新しいあり方の模索」に記載しましたとおり、地域コミュニティの担い手の不足や高齢化が進むなか、地域の枠組みを超えて連携の輪を広げることで課題解決を図ろうとする動きを支援していくことが重要です。 「地域組織の新しいあり方」を模索するとともに、地域コミュニティの活性化を推進するため、主要な取組の「自治会・町内会、学区、校区、行政区等のさまざまな単位での地域交流の促進」等に取り組んでまいります。

自治会・町内会・学区等のさまざまな単位の地域交流とはどのような取組を想定しているのか。	中京区では、町内会や学区など、さまざまな単位でレクリエーションや学習会等の地域交流を促進する取組が実施されています。 一方、⑥「地域組織の新しいあり方の模索」に記載しましたとおり、地域コミュニティの担い手の不足や高齢化が進んでおり、今後も地域交流を促進していくには、地域の枠組みを超えて連携の輪を広げることで課題解決を図ろうとする動きを支援していくことも重要です。 地域の皆さんと「地域組織の新しいあり方」を模索しながら、地域で実施されている地蔵盆やスポーツ、健康教室など、地域交流を促進するさまざまな取組が今後もそれぞれの地域に応じた方法で継続できるよう支援してまいります。
- 高齢化によるコミュニティ衰退を遅らせるため、町内会役員の負担を減らすための改革が必要である。 - 高齢を理由に地域の活動を辞退するひが多いため、高齢者が増えれば現役世代の負担感が重くなる。地域活動の役割について、本当に必要なことを精査して簡素化していくことが、担い手を増やすことにつながる。 - 加入している世帯が減少し、毎年自治会で何らかの役が回ってきている。自治会の役割も見直す必要がある。 - 最近では30、40代の人が減り、地域の役が集中している。高齢者への声掛け等は本来行政が対応すべきであり、民生委員や消防団等の負担も大きい。若年層が多ければ成り立つが、今後は町内会の存続も怪しい。 - 高齢者が増え、今後福祉活動の負担がさらに大きくなる。負担を避けるため、コミュ	⑥「地域組織の新しいあり方の模索」に記載しましたとおり、地域コミュニティの担い手の不足や高齢化が進むなか、地域の枠組みを超えて連携の輪を広げることで課題解決を図ろうとする動きを支援するとともに、地域企業など、これまでから地域を支えてきた主体との連携を深めていくことも重要です。 「NPO、事業者、大学等の多様な主体との連携の促進」等により、持続可能な「地域組織の新しいあり方」を模索してまいります。

ニティへの参入を避けるひが増えるのではないか。 ・片親や両親共働き世代，単身世帯が増加など，社会の在り方が変容しているなか，家族主義等の伝統的な価値観や旧来的な職業スタイルに則った自治会・町内会の形式は時代に合わせて変容しているとはいえない。変容しない限り，拘束性が高く，たいては生活の役に立たない印象は消えない。根本的な見直しが必要ではないか。 ・自治会・町内会への加入については，ハードルが高いと感じているひが多い。若い世代が参加しやすい仕組みづくりを，地域とともに模索していく必要がある。 ・長年の住民自治とコミュニティの力が中京区のよさを守ってきた。地域に根ざした商店や中小零細業者の果たしてきた役割も大きい。銭湯や雰囲気の良い酒場等がいつまでも残ってほしい。 ・高齢世帯ばかりになると町内会活動も停滞する。高齢世帯が死去や施設入居で出いった後は，子ども世帯に戻ってきてほしい。	
・京都は学生が多いまちなので，行事のサポートや準備，実行に関わってもらえるよう呼びかけていきたい。伝統行事もこだわりを減らし，広く呼びかけた方がよい。	⑥「地域組織の新しいあり方の模索」に記載しましたとおり，地域コミュニティの担い手の不足や高齢化が進むなか，地域の枠組みを超えて連携の輪を広げることで課題解決を図ろうとする動きを支援していくことが重要です。 大学等の研究機関の協力も得ながら「地域組織の新しいあり方」を模索するため，主要な取組の「大学との包括協定を生かした学生が地域課題の解決に取り組むしくみの検討」等に取り組んでまいります。

【戦略2：だれもが互いに認め合い、支え合えるコミュニティづくり】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・誤った知識や誤解から望まない妊娠をしてしまう女子高生，大学生が増えている。誰にも相談できずに不安を抱え，出産した赤ちゃんを遺棄したという痛ましい事件もある。若いうちに乳幼児と関わり，そのお母さんや保育士の方から出産，育児の話を聞くことで小さな命を守ろうとする気持ちをもってもらいたい。誤った性の知識を見直すための性教育や，デートDV等について学び，お互いの権利を尊重し，認め合う人権教育の推進が必要である。	御指摘のとおり，ひとりひとりが日々のくらしのなかでお互いを認め合い，多様性を尊重する人権文化の息づくまちづくりを推進していくには，若者への人権教育をはじめとした情報発信の充実や男女共同参画など，これまで行ってきた地域ぐるみの取組を一層推進していくことが重要であると認識しています。 ②「人権文化の息づくまちづくり」の主要な取組に，「青少年活動センターや男女共同参画センターと連携した若者への相談対応」を追加します。
・動物にやさしい社会は，子どもの教育にとってかせない。動物虐待や虐殺は，やがて弱い立場の人間がターゲットになることが懸念される。野良猫を地域猫として緩やかに減少させる取組に力を入れれば，余裕をもって地域猫を多くの市民で世話ができ虐待も減る。動物虐待を許さないまちは，子どもへの虐待も許さない社会につながるので，動物福祉関係の取組を追加してほしい。 ・動物との関わりについて記載してはどうか。	御指摘のとおり，ひとりひとりが日々のくらしのなかでお互いを認め合い，多様性を尊重する人権文化の息づくまちづくりを推進していくには，ひとと動物との共生や子どもの人権をはじめこれまで行ってきた地域ぐるみの取組を一層推進することが重要であると認識しています。 ②「人権文化の息づくまちづくり」の主要な取組に，「ひとと動物との共生を推進する動物愛護や飼育マナー等の普及啓発」を追加します。

・戦略2の人権文化の構築に向けた情報発信の充実については、LGBTQの発信等を具体的に記載するか、多様性を尊重する人権文化の構築とした方がわかりやすい。 ・まちづくり戦略2に、LGBTQに関する記述を入れてはどうか。	御指摘のとおり、ひとりひとりが日々のくらしのなかでお互いを認め合い、多様性を尊重する人権文化の息づくまちづくりを推進していく必要があります。 ②「人権文化の息づくまちづくり」の主要な取組の「人権文化の構築に向けた情報発信の充実」に「多様性を尊重する」との文言を追加し、「<u>多様性を尊重する人権文化の構築</u>に向けた情報発信による啓発や人権擁護委員と連携した相談体制の強化」に変更します。あわせて、コラムにLGBTの注釈を追加します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・皆が助け合いの精神をもてるとよい。 ・老人も若い人に頼りすぎず、お互いに支え合える、住みよいやさしいまちになってほしい。	リード文に記載しましたとおり、地域の福祉的課題は複雑化、複合化しており、課題を抱えたひとが、地域や社会から孤立することがないように、地域のつながりのなかで、より多くの区民が支え合いにかかわることができる地域づくりが求められています。 中京区の強みである地域力を基盤として、世代や分野を超えて、すべてのひとや団体が、それぞれのくらしや活動のなかで、生きがいをともにつくり、お互いを尊重し合うことのできる、だれもが健やかでいきいきと笑顔あふれる地域共生社会の実現をめざしてまいります。

・だれもが互いに認め合い、支え合えるコミュニティづくりを中京マチビト café でとりあげてほしい。（＊）	リード文に記載しましたとおり、地域の福祉的課題は複雑化、複合化しており、課題を抱えたひとが、地域や社会から孤立することがないように、地域のつながりのなかで、より多くの区民が支え合いにかかわることができる地域づくりが重要であると認識しています。 今後とも中京マチビト café をはじめ、区民の皆さんや、事業者、大学等と議論を深め、連携しながらだれもが互いに認め合い、支え合えるコミュニティづくりに向け取組を進めてまいります。
・少子高齢化が進み、社会経済を支える層が少なくなれば、高齢者等のサービスを提供する担い手も不足する。ひとりひとりが役割をもち、支え合いながら安心して暮らせるよう、働けるうちは就労、ボランティア、何らかの形で地域との関わりをもち続けていきたい。 ・独居老人や介護を要する高齢者もまちに馴染めるようにしてあげたい。何でも行政に任せてしまうことなく、区民ひとりひとりが志を高く、汗を流せるものは率先し、寄付や知恵を出せるものは外部からも協力するということが大切である。	リード文に記載しましたとおり、地域の福祉的課題は複雑化、複合化しており、課題を抱えたひとが、地域や社会から孤立することがないように、地域のつながりのなかで、より多くの区民が支え合いにかかわることができる地域づくりが重要であると認識しています。 御指摘のとおり、社会をつくるのは、ひとりひとりの意識や行動であり、ひとりひとりが、日々のくらしのなかでできることを行い、支え合っていくことが大切です。今後とも、地域のなかで実践いただいている皆さんと連携しながら、だれにとっても住みよい地域づくりを推進してまいります。

・高齢者が自宅からリモートで参加できる企画がほしい。	①「地域で取り組む健康長寿のまちづくり」に記載しましたとおり、ひとりひとりが正しい知識をもち、それぞれのライフステージや状況に応じて、主体的に健康づくりに取り組める環境づくりを進めていくことが重要です。 現在、中京区役所においても、コロナ禍にあって、中京マチビト Cafe 等をオンライン形式で実施しております。今後とも、リモートでの参加など、だれもが参加しやすい企画の実施をめざすとともに、主要な取組の「フレイル対策など、健康づくりに関する情報発信、学習会の開催」等に取り組んでまいります。
・ポストコロナ社会において、高齢者の体力低下を危惧している。高齢者向けのスポーツ体験等の施策をより拡充する必要がある。	①「地域で取り組む健康長寿のまちづくり」に記載しましたとおり、ひとりひとりが正しい知識をもち、それぞれのライフステージや状況に応じて、主体的に健康づくりに取り組める環境づくりを進めていくことが重要です。 主要な取組の「地域の福祉団体や体育振興会が取り組む健康づくりの取組への支援」等に取り組んでまいります。
・ボランティア活動等を推進することで、ボケ防止など、高齢者も活躍できる活力のあるまちづくりができる。	①「地域で取り組む健康長寿のまちづくり」に記載しましたとおり、ひとりひとりが正しい知識をもち、それぞれのライフステージや状況に応じて、主体的に健康づくりに取り組める環境づくりを進めていくことが重要です。 主要な取組の「地域で健康づくり活動を支援するボランティアの育成」等に取り組んでまいります。

・どのような人権問題があり、中京区がどれに取り組むのかがわからない。人権といっても多岐にわたる問題があり、各々対処方法も異なる。	②「人権文化の息づくまちづくり」に記載しましたとおり、女性や障害のあるひとなど、さまざまな人権問題があり、さらに最近ではインターネット上での人権侵害や新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症患者への差別や偏見等の新たな人権問題も顕在化しています。 共生社会の構築に向け、主要な取組の「多様性を尊重する人権文化の構築に向けた情報発信による啓発や人権擁護委員と連携した相談体制の強化」等に取り組んでまいります。
・「人権文化の息づくまちづくり」は非常に重要である。戸籍、性別、門地、年齢、病気、障害、その他あらゆる場面でマイノリティ側や弱い立場に立つひとびとの人権が尊重されるまちづくりを進めてほしい。 ・偏見のない風通しのよいまちになってほしい。	②「人権文化の息づくまちづくり」に記載しましたとおり、男女共同参画や障害者福祉の推進等をはじめとした共生社会の構築に向け、ひとりひとりが日々のくらしのなかでお互いを認め合い、多様性を尊重する人権文化の息づくまちづくりを推進していくことが重要です。 差別のないあらゆるひとが活躍できるまちづくりに向け、主要な取組の「多様性を尊重する人権文化の構築に向けた情報発信による啓発や人権擁護委員と連携した相談体制の強化」等に取り組んでまいります。

・女性が活躍するまちになってほしい。(＊)	②「人権文化の息づくまちづくり」に記載しましたとおり、男女共同参画や障害者福祉の推進等をはじめとした共生社会の構築に向け、ひとりひとりが日々のくらしのなかでお互いを認め合い、多様性を尊重する人権文化の息づくまちづくりを推進していくことが重要であり、あわせて人口減少社会のなか、ゆとりがあり豊かで活力にあふれた社会を維持していくためには、女性がより一層活躍できる社会を実現していく必要があります。 女性活躍推進の取組とあわせ、主要な取組の「多様性を尊重する人権文化の構築に向けた情報発信による啓発や人権擁護委員と連携した相談体制の強化」等に取り組んでまいります。
・中京区も長寿化が進み単独世帯が増えている状況にあり、高齢者の孤立化が危惧されている。高齢者が孤立化した場合、孤独死が最悪のケースとして想定される。孤独死ゼロのまちになってほしい。 ・地域で高齢者を見守り、支え合えるまちになってほしい。 ・ひきこもりや不登校の子どもが出ないような対策が必要である。住民がおもいやりの心もち、ボランティアへの支援ができればいい。	③「誰一人孤立させない地域づくり」に記載しましたとおり、ひきこもり、8050問題、生活困窮など、地域にはさまざまな理由で、生きづらさを抱えているひとがいます。地域で当事者の課題に「気づき」、「関心を持ち」、「互いに認め合える」関係をつくり、地域での支え合いの充実や公的支援・サービスに円滑につながることのできる、お互いに助け合えるコミュニティづくりを推進していくことが重要です。 誰一人孤立のない地域づくりをめざし、主要な取組の「地域の福祉団体等が取り組む見守り活動への支援」等に取り組んでまいります。

・経済的な困窮者も安心して過ごせるよう、自助・共助・公助が過度に自助へ傾斜しない、適切な公助を渋らないまちづくりを進めてほしい。 ・計画は賛同できる内容である。とくに「誰一人孤立させない」ことは重要である。ただし、コロナ禍で「自助・共助」は限界に来ている。「公助」が充実しセーフティーネットが機能してこそ、コミュニティが力を発揮する。財政危機を理由に住民を切り捨てる＝「孤立させる」ことはあってはならない。コミュニティの活性化は大事であるが、地域社会だけで何とかしようというのであれば、かえって地域社会の分断を生むものにもなりかねない。	③「誰一人孤立させない地域づくり」に記載しましたとおり、ひきこもり、8050 問題、生活困窮など、地域にはさまざまな理由で、生きづらさを抱えているひとがいると認識しています。 自助、共助、公助のバランスの取れた誰一人孤立のない地域をめざし、公的支援・サービスを円滑に進めながら、主要な取組の「地域の福祉団体等が取り組む見守り活動への支援」等に取り組んでまいります。
・福祉やボランティア活動が当たり前になってほしい。区役所屋上庭園の活動も、もっと多くのひとに知らせたい。	③「誰一人孤立させない地域づくり」に記載しましたとおり、ひきこもり、8050 問題、生活困窮など、地域にはさまざまな理由で、生きづらさを抱えているひとがいます。地域で当事者の課題に「気づき」、「関心を持ち」、「互いに認め合える」関係をつくり、地域での支え合いの充実や公的支援・サービスに円滑につなぐことのできる、お互いに助け合えるコミュニティづくりを推進していくことが重要です。 誰一人孤立のない地域づくりをめざし、主要な取組の「地域における福祉活動の担い手の育成」等に取り組んでまいります。

・近隣でお互いに助け合える、コミュニケーションが容易にできるまちになってほしい。 ・ひととひとが直接関わる機会が増えてほしい。ひととの関わりが不便と見られないようなまちになってほしい。 ・自転車で移動できるひととひとの顔が見えるまちになってほしいが、働いていても、ひととつながるのは難しい。 ・コロナ禍にあってもひととひとが横の繋がりを感ぜられる暖かい区であってほしい。 ・お年寄りと子どもにやさしいまちになってほしい。 ・若いひとのアイデアを積極的に取り入れつつ、お年寄りも置いてきぼりにしない地域になってほしい。 ・高齢化が進むなか、空き家を利用した町家カフェなど、高齢者が気軽に入れるコミュニティカフェが増えるとよい。 ・元気な高齢者が働ける場所がほしい。老人と幼児が触れ合える施設もあればよい。	④「世代を超えた地域交流の促進」に記載しましたとおり、共働き世帯が増え、世帯人数が減少するなか、親の介護と子育てを同時に抱えるなど、複雑化、複合化する生活課題に個々の家庭だけで対応していくことは難しくなっています。 地域全体で支え合う相互扶助の実現をめざし、主要な取組の「地域における交流の場づくりや交流事業への支援」等に取り組んでまいります。
・ひととひとの交流が活発で、高齢者にとって安心・安全で文化的刺激のあるまちになってほしい。植木、染色、昔遊びなど、共通の興味を共有する機会が少ないので、自治会館等の地域の場をサロンや情報交流の場としてこれまで以上に活用していくことが必要である。 ・高齢化社会にあって、学校跡地を活用して高齢者の居場所づくりを進めてほしい。パソコンやスマホ教室など、高齢者の学びの場も設けてほしい。 ・環境や価値観、これまでの経験の乖離が激しいため全世代交流は難しい。どの世代とどの世代を結び付けたいのか考慮し、ひと	④「世代を超えた地域交流の促進」に記載しましたとおり、地域全体で支え合う相互扶助を実現するには、身近な地域で顔が見える関係を築いていくことが重要です。 いただいた御意見も参考に、主要な取組の「地域における交流の場づくりや交流事業への支援」等に取り組んでまいります。

つずつすり合わせていく必要がある。	
・地域における支え合い活動の周知や啓発を推進し、5年後も地域住民同士がお互いに支え合い、より良い活動を深めていってほしい。	④「世代を超えた地域交流の促進」に記載しましたとおり、共働き世帯が増え、世帯人数が減少するなか、親の介護と子育てを同時に抱えるなど、複雑化、複合化する生活課題に個々の家庭だけで対応していくことは難しくなっています。 地域全体で支え合う相互扶助の実現をめざし、主要な取組の「地域における支え合い活動の周知・啓発の推進」等に取り組んでまいります。
・バラバラでなく、さまざまな人、団体が協力しあうまちになってほしい。	⑤「支援者ネットワークの強化と連携」に記載しましたとおり、多様化する地域の福祉ニーズに対応するには、障害者福祉、介護、子育て等の各分野で活躍する関係者が連携していくことが重要です。 主要な取組の「多様な主体が連携・協働して取り組む活動への支援」等に取り組んでまいります。
・高校生や大学生など、発想力、発信力のある若い世代をサポートし、育てていくことが必要である。子どもを育てやすい、わくわくするまちをつかってほしい。	⑥「将来の担い手を育み、コミュニティをつないでいく学びの場づくり」に記載しましたとおり、今後より一層、地域における相互扶助が重要になってくるなか、現在の福祉的課題への対応と並行して、将来の担い手を育成していくことが重要です。 子どもや若者も含めた次の世代の担い手が、当事者と出会い、課題に気づく機会をつくっていけるよう、主要な取組の「学校や地域団体等と連携した子どもたちへの学びの機会の創出」等に取り組んでまいります。

【戦略3：地域ぐるみでの子育て環境の充実】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・子どもの居場所はさまざま学校だけが拠点とはいきれないのではないか。フリースクールやNPOの会、子ども食堂等も居場所といえるのではないか。 ・子どもの居場所づくりとして、学校を拠点としたとありますが、公園や児童館も含め、親も子も一緒に楽しむことのできる場所を充実させてほしい。	御指摘のとおり、子どもたちが健やかに育ち、社会のなかで生きる力を身につけていくには、学校や関係機関との連携の下、地域における子どもたちの居場所を確保することが重要であると認識しております。 ③「子どもの学びを応援する多様なしくみづくり」の主要な取組の「学校を拠点とした地域における子どもの居場所づくりの推進」を「学校や児童館をはじめ、子ども食堂等を運営する団体とも連携した地域における子どもの居場所づくりの推進」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・少子化の中、子育て環境の充実が求められている。子育てしやすく、便利なまちになってもらいたい。 ・子育て世代を対象にしているのは良いと思った。	リード文に記載しましたとおり、地域ぐるみで子育て支援体制を強化することが重要であると認識しています。 今後とも、本計画に基づき、子育てがしやすいまちとなるよう取組を進めてまいります。
・地域ぐるみでの子育て環境の充実をマチCaféでとりあげてほしい。（*）	リード文に記載しましたとおり、地域ぐるみで子育て支援体制を強化するとともに、子どもたち自身の成長や子育てを通じた保護者の学びを後押しすることが重要であると認識しています。 今後とも中京マチビト caféをはじめ、区民の皆さんや事業者、大学等と議論を深め、連携しながら地域ぐるみでの子育て環境の充実に向け取組を進めてまいります。

・京都市など、あらゆる主体と連携し、子育て環境の充実に取り組んでほしい。	①「安心して子育てができる環境づくり」に記載しましたとおり、安心して子どもを生き育てていく環境をつくるには、子育てをする保護者の不安や悩みを解消し、負担を減らしていくことが重要です。 地域団体や関係機関、大学等とも連携しながら主要な取組の「不妊・不育への支援、妊産婦・新生児の家庭訪問や ICT（情報通信技術）の活用も含めたさまざまな機会での相談など、子育て支援体制の充実」等に取り組んでまいります。
・区役所内で連携して子育て情報の発信をしてほしい。	①「安心して子育てができる環境づくり」に記載しましたとおり、安心して子どもを生き育てていく環境をつくるには、子育てをする保護者の不安や悩みを解消し、負担を減らしていくことが重要です。 区役所内はもとより、地域団体や関係機関、大学等とも連携しながら主要な取組の「子育てに関する情報発信・講座の充実」等に取り組んでまいります。
・コロナ禍で中京ベビーズサポートマーケットプロジェクトは中止になっているが収束後には再開してほしい。孤独感や自分だけが社会から取り残されている等の孤立感をもつ方や産後うつの方もいる。出産や育児に不安や悩みをもつお母さんが同じ立場のお母さんたちと交流し、本音で話せる場が必要である。	①「安心して子育てができる環境づくり」に記載しましたとおり、安心して子どもを生き育てていく環境をつくるには、子育てをする保護者の不安や悩みを解消し、負担を減らしていくことが重要です。 地域団体や関係機関、大学等とも連携しながら主要な取組の「子育て世代が交流できる機会の提供」等に取り組んでまいります。 なお、中京ベビーズサポートマーケットプロジェクトについては、オンラインに切りかえ毎週木曜日に実施しています。ぜひ周知に御協力をお願いします。

・地域全体で子どもの成長を見守るまちになってほしい。 ・親だけでは子育てできないので、可能な限り早期の行政施策や地域支援が必要である。 ・子育て世代が交流できる機会は、区役所の事業だけでなく、各学区の児童館等、さまざまな場所で企画してほしい。	②「地域における子育て支援活動の活性化」に記載しましたとおり、中京区には、子どもたちを「社会の宝」として地域全体で育てていく、といった「人づくりの伝統」が脈々と受け継がれ、今も地域に根付いています。 主要な取組の「保健師や保育士等の専門職の派遣や大学等との連携による地域の子育てサロンへの活動支援」に取り組むなど、地域全体で子育て家庭を温かく見守り、支え合う、子育てしやすいまちづくりを推進します。
・子ども食堂や食品ロスの活動についてポスターや回覧等はほぼ見たことがありません。子どもに関してのボランティアに参加できるよう、情報発信してほしい。 ・子どもたちのために、若い人の力や、中高年の知識や経験がいかせるまちになってほしい。特に技術・特技をもちながら時間も余裕のある人を誘い入れる機会をたくさん作るべき。 ・保育園や小学校の送迎など、ボランティアが当たり前になってほしい。折り紙やけん玉等を指導するのもよい。元プロの人ならば、スポーツやパソコンの指導等もできるのではないか。	②「地域における子育て支援活動の活性化」に記載しましたとおり、中京区には、子どもたちを「社会の宝」として地域全体で育てていく、といった「人づくりの伝統」が脈々と受け継がれ、今も地域に根付いています。 意欲のある人や特技をもった人の力をいかせるよう、主要な取組の「地域の子育て支援団体やボランティア団体への活動支援」等に取り組んでまいります。 なお、子ども食堂等の活動支援については、中京区社会福祉協議会と連携して進めています。今後これまで以上に支援できるよう、より一層の情報発信に取り組んでまいります。

・子どもの教育は、単なる学力でなく、学校ではできないような社会教育が重要だ。大人ともかかわることが必要であり、地域の祭りやイベントが効果的である。地域を知らないまま大人になるのもいかなものか。	③「子どもの学びを応援する多様なしくみづくり」に記載しましたとおり、子どもたちが健やかに育ち、社会のなかで生きる力を身につけていくには、子どもの頃から地域社会の一員として愛され、多様な世代との交流のなかで社会のルールや支え合いの気持ちを身につけていくことが重要です。 子どもたちの多様な学びの場の創出に向け、主要な取組の「地域行事への子どもたちの参加促進」等に取り組んでまいります。
・子育て施策は、就学前までは手厚いが、小学生以上になると普段過ごす場所を見つけるのも苦勞する。遊ぶ場所やスポーツが出来る所、学童クラブ等の小学生以上の子どもたちが地域で過ごせる場所が欲しい。 ・学習スペースの多い便利なまちになってほしい。 ・子どもがのびのびと遊べる空間が増えてほしい。	③「子どもの学びを応援する多様なしくみづくり」に記載しましたとおり、子どもたちが健やかに育ち、社会のなかで生きる力を身につけていくには、子どもの頃から地域社会の一員として愛され、多様な世代との交流のなかで社会のルールや支え合いの気持ちを身につけていくことが重要です。 若い世代の学びを後押しできるよう、主要な取組の「学校や児童館をはじめ、子ども食堂等を運営する団体とも連携した地域における子どもの居場所づくりの推進」など、学びの場も含めた多様な居場所づくりに取り組んでまいります。

【戦略4：地域ごとの歴史文化を生かした個性あるまちづくり】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・ 祇園祭をはじめ、これまで続いてきた京都の伝統を次世代につなげ、まちなかでも自然を感じることができる環境に負荷をかけない暮らしを心がけることが重要である。	御指摘のとおり、子どもたちが地域に息づく歴史や、暮らしのなかに継承され根付いている文化を再発見し、身近に感じる機会をつくることや、歴史や伝統を通して木の文化など、まちなかでも自然を感じること、それらに愛着をもち、守り、育てるきっかけになる取組を進めていくことが重要です。 ①「歴史文化の再発見と継承」の主要な取組に、「地域の伝統的な祭りや暮らしを支える「木の文化」の大切さを学べる機会の創出」を追加します。
・ 伝統産業の価値を詳しく書いた方がいい。最近注目されているエシカル消費も伝統産業そのものである。地域の歴史、風土、文化をもとに長年続いてきたのが伝統産業である。伝統産業は産業でありながら文化であり、環境の面からも価値がある。企業の力で伝統産業と環境保護を進めていくというようなことを加えてはどうか。 ・ 伝統産業品は、エシカル消費に貢献することを記述してはどうか。まちづくり戦略7に記載してもよい。より身近に感じてもらう工夫として、戦略を横断して提案することも必要である。	御指摘のとおり、中京区では、文化や芸術と密接に結びつきながら、日々の暮らしのなかに伝統産業品が溶け込んでいます。伝統産業のもつ文化、産業、環境など、多様な価値を発信していくことは、同時にさまざまな課題の解決につながることから重要です。 ③「伝統産業の活性化」の主要な取組とまちづくり戦略7②「昔ながらの暮らしの知恵の再発見」に、「伝統産業を通じた環境問題の意識啓発の推進」を追加します。

・「通りの復権」は中京区ならでは他に類を見ない取組であり，これからも長い時をかけて区民の交通問題意識を変えていく必要がある。「通りの復権」に関する記述をもう少し目立つような工夫を検討し，通りが生活空間の一部である「まちなか」ならではの中京区のめざす姿として，アピールしてほしい。	御指摘のとおり，中京区では，区民のくらしや生業，催事や伝統が古くから「通り」で営まれてきましたが，現在では「通り」が単なる通過空間になっており，安心・安全に往来できる魅力ある「通り」の復権をめざした取組は，今後も引き続き推進していかなければならない重要な事業です。 ④のタイトル「歩いて楽しいまちなかの創出」を「通りの復権による歩いて楽しいまちなかの創出」に変更します。
・町並みを生かした交流事業について，これまでどのような対策が取られていたか知りたい。	京町家等の建物や緑がある美しい町並みは，長い年月をかけて地域の歴史や文化と一体となり形成されてきた地域の財産です。各地域では，調和のとれた景観保全をめざし，景観まち歩きや文化講座等が活発に行われてきました。今後も先人たちの残した貴重な財産を次の世代に引き継ぐため，こうした取組を進めることが重要です。 よりわかりやすい記述とするため，⑤「景観を生かしたまちづくり」の主要な取組の「町並みを生かした交流事業の支援」を「町並みを生かした景観まち歩きや文化講座など，地域の交流事業の支援」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・区内に豊富にある歴史・文化資源を活用した取組に期待している。	リード文に記載しましたとおり，中京区では，地域ごとに伝統行事が脈々と受け継がれてきたことで，まちに一体感が醸成され，地域のまとまりが生み出されてきました。 区民が愛着心をもって大切にしてきた歴史文化を未来に継承するとともに，地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでいきます。

・地域の伝統を守ることが重要である。 ・お茶や着付け等が学べる安価な講座が必要である。民間の講座は月謝が高く継続できない。	①「歴史文化の再発見と継承」に記載しましたとおり、地域の歴史文化は、地域の誇りであり、地域の個性や特徴を体現しています。 地域の歴史文化を次の世代へと継承するため、主要な取組の「地域のくらしの文化に関する学習会やイベントの実施」等に取り組んでまいります。
・歴史・文化の体験や、祭りや行事への参加は、子どもたちや若者にとって重要であり、担い手の発掘にもつながる。 ・祇園祭や時代祭がしっかり続いていくように担い手を育てることが重要である。 ・銚町以外の地域の子どものも、例えば「ちまき売り」や「曳き初め」など、祇園祭に参加できるようになってほしい。 ・子どもたちが和の暮らしに馴染むまちになってほしい。	①「歴史文化の再発見と継承」に記載しましたとおり、子どもたちが地域に息づく歴史や、くらしのなかに継承され根付いている文化を再発見し、身近に感じる機会をつくるなど、それらに愛着をもち、守り、育てるきっかけになる取組が重要です。 地域の歴史文化を次の世代へと継承するため、主要な取組の「親子で地域の祭りや伝統行事を楽しめる取組への支援」等に取り組んでまいります。
・伝統行事がコロナ禍の中、中止になる状況が続いており、次の世代に継承されるのか心配である。伝統技能の継承について対応してほしい。 ・歴史文化の担い手である若者を育てられるようにしていくためには、保育園の充実など、子育てがしやすいまちにすることが重要である。若者がいなくなれば祭りの継承もできない。伝統産業でも、若者が親の跡を継ぎたいと思えるような支援が必要である。	②「地域個性の再認識と発信」に記載しましたとおり、地域の個性を再認識するとともに、担い手や守り手を支援していくことが重要です。 地域で脈々と受け継がれてきた祭りや行事を次の世代に継承していくため、主要な取組の「元離宮二条城をはじめとする地域の歴史遺産や文化の担い手支援と魅力の発信」等に取り組んでまいります。

・若い人に魅力を伝えるなど、伝統産業をしっかり守ってほしい。中京は着物のまちであり、職人さんを守らなければ京都でなくなる。	③「伝統産業の活性化」に記載しましたとおり、区民が気軽に「作り手」である職人の匠のわざや心に触れ、伝統産業をより身近に感じる機会をつくることが重要です。 日々のくらしのなかに伝統産業品が溶け込む「ホンモノ」があるくらしを次の世代に継承できるよう主要な取組を進めてまいります。
・伝統産業がコロナ禍でますます衰退している。新しい産業の育成や誘致とともに、伝統産業の新たな活かし方を考えなければならぬ。 ・伝統産業品の低価格化による、若者の購買意欲を喚起する取組が必要である。	③「伝統産業の活性化」に記載しましたとおり、茶道や華道等の文化活動が盛んな中京区では、文化や芸術と密接に結びつきながら、日々のくらしのなかに伝統産業品が溶け込んでいます。 「ホンモノ」があるくらしを次の世代に継承していくために、主要な取組をはじめ、伝統産業の活性化に取り組んでまいります。
・伝統産業の衰退を食い止めてほしい。消費者が支えないといけなが、伝統産業のことがそもそもわからないという世代が増えている。子どもの頃から教える、若者から若者に働きかける等の工夫が必要であり、そういう活動を支援してほしい。	③「伝統産業の活性化」に記載しましたとおり、区民が気軽に「作り手」である職人の匠のわざや心に触れ、伝統産業をより身近に感じる機会をつくることが重要です。 日々のくらしのなかに伝統産業品が溶け込む「ホンモノ」があるくらしを次の世代に継承していくために、主要な取組の「伝統産業を体験・見学できる工房見学ツアーの実施」等に取り組んでまいります。
・歩いて楽しいまちなかを創出するうえで、情報発信は、来訪者に伝わらない限り何らの意味もない。通りの景観統一など、物理的な面から変える必要がある。地域の伝統文化や産業も、いつまでもその価値が社会的に尊重されるとは限らない。愛着をもってもらえるまちづくりに取り組む必要がある。	④「通りの復権による歩いて楽しいまちなかの創出」に記載しましたとおり、四季の移ろいを大切にするくらしの文化が根付く中京区では、「通り」はくらしや催事が営まれるひとびとが集い華やぐ舞台です。 区民はもとより訪れたひとのだけれどが、歩いて楽しいと実感できるまちづくりをめざし、景観保全の取組とも連携しながら地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでまいります。

・中京区は便利であるが、子どもたちの遊べる場所等は少ない。町家が並ぶ風景を残しつつ、路地の奥に子どもたちが騒げる場所をつくるのが大切である。 ・子どもたちの作品を道に飾るなど、アート作品が飾られたまちになってほしい。	④「通りの復権による歩いて楽しいまちなかの創出」に記載しましたとおり、四季の移ろいを大切にするくらしの文化が根付く中京区では、「通り」はくらしや催事が営まれるひとびとが集い華やぐ舞台です。 主要な取組の「地域の団体や学校と連携した「通り」の安全を確保する取組の推進」をはじめ地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでまいります。
・今までの歴史的資産を生かした町並みを守り続けることが重要である。 ・京都らしい町並みを残してほしい。 ・歴史文化や市民の手で守られてきた景観を守らないといけない。高さ規制は維持すべき。 ・マンションの屋上からではなく、通りから五山の送り火が見られるまちになってほしい。 ・今と変わらない町並み、文化を残しつつ、価値観は時代に合わせて柔軟に変わってほしい。 ・歴史を感じることができる町並みをもっと大事にしてほしい。 ・中京区らしい景観の創出に取り組んでほしい。 ・新しいのか古いのか分からない統一感のない街並みではなく、どちらかに突き抜けた個性的なまちになってほしい。 ・商業都市であり観光都市の中心地である中京区として、町家や社寺仏閣等の風景が損なわれない景観対策を行ってほしい。	⑤「景観を生かしたまちづくり」に記載しましたとおり、京町家等の建物や緑がある美しい町並みは、長い年月をかけて地域の歴史や文化と一体となり形成されてきた地域の財産です。 主要な取組の「地域景観づくり協議会の活動など、地域で展開される取組の発信」等を通じて、各地域で行われてきた調和のとれた景観保全の活動に学び、先人たちの残した貴重な財産を次の世代に引き継ぐ取組を推進してまいります。

【戦略5：商い・ものづくり・学問のつながりが生み出すにぎわいづくり】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・公園や道路，ロータリーの一時的な使用許可を営利目的であってもできるようにし，市の財源への補填等に充ててはどうか。 ・公園でだれでも出せるマルシェやフリーマーケットができれば有効利用になる。	中京区内には地域の祭りや福祉等の地域活動を支える企業が多数存在し，まちづくりの担い手として活動しています。本市の財政が厳しいなか，中京区のにぎわいづくりを進めていくうえで企業のまちづくり活動へのさらなる参画を促進していくことは欠かせないと認識しております。 ④「地域企業との連携」の主要な取組に，「地域企業による公園等でのイベントの開催など，公共空間を活用したにぎわいづくりの推進」を追加します。
・京都は有名なベンチャー企業が多い。若い人が第二，第三の京セラを作っていくような仕組みが必要である。計画案は社会的企業等と連携して新しいビジネスを産み出していこうという心意気が表れている。それであれば，主要な取組でも例として挙げるのはイチバンボシギフトよりもアントレプレナー教育に取り組んでいくと書いた方がわかりやすい。次の起業家を育成していくことが，ベンチャー都市京都にふさわしい。 ・教育は京都の原点である。アントレプレナー教育等も注目されているので取り込んではどうか。	御指摘のとおり，近年，中京区内では新たなビジネスモデルで急成長をめざすスタートアップ企業や社会課題解決を目的に新しい事業を展開する社会的企業が活躍しています。 ⑤「スタートアップ・エコシステムの形成と社会課題解決型ビジネスの集積」の主要な取組の「社会的企業との連携によるイチバンボシギフト等の事業の推進」を「社会的企業との連携によるアントレプレナーシップ教育等の推進」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・京都市民が生き生きと暮らし、働けるまちであってほしい。中京区は商いと産業のまちであるべき。 ・戦略5を進めてほしい。 ・中京区は住宅地としての価値と商業地としての魅力を兼ね備えてほしい。中京区に生まれ、育ち、住み、働くような地元で貢献できる人が増えてほしい。 ・区職員の育成にも力を入れ、働く人がたくさん居る元気なまちになってほしい。 ・区民、企業、大学など、中京区に集うすべての人にやさしいまちになってほしい。	リード文に記載しましたとおり、中京区は、市内で最も多くの事業所がある経済活動の中心地であり、魅力的な個店で構成された商店街の活動が活発な地域です。 今後とも、本計画に基づき、多様な主体が活躍する中京区の強みを最大限に発揮し、ポストコロナ社会への対応も含め地域や社会のさまざまな課題の解決やにぎわいづくりに取り組んでまいります。
・若者にとって魅力のあるなんでもそろうまちになってほしい。	①魅力ある個店の集積を生かしたまちづくりに記載しましたとおり、魅力的な個店が集積する中京区では、事業者が互いに切磋琢磨し、「京もの」に代表される質の高い商品が提供されてきました。 今後とも「にぎわいと華やぎのある都心商業」の振興に取り組んでまいります。
・コロナ禍で苦しい思いをしているお店がたくさんある。それらの店がもつ、京都ならではの歴史や外観、文化を失わないように維持してほしい。京都は趣や風情があり、誇らしげな気持ちになる。	①魅力ある個店の集積を生かしたまちづくりに記載しましたとおり、魅力的な個店が集積する中京区では、事業者が互いに切磋琢磨し、「京もの」に代表される質の高い商品が提供されてきました。こうした事業者が活躍することが「にぎわいと華やぎのある都心商業」の振興にとって重要です。 引き続き他部局とも連携して経済対策等に取り組むとともに、主要な取組の「新たな魅力を創造する若手事業者や老舗の挑戦的な取組の発信」等に取り組んでまいります。

・三条会商店街は商店街活性化のモデルケースと言える。中京区の主な観光コンテンツである二条城や錦市場、京都国際マンガミュージアム等を生かした観光振興も応援したい。	②協働による商店街の活性化に記載しましたとおり、商店街は、区民の日常の暮らしを支えるとともに、地域住民、学生、事業者等多様なひとびとが集まるコミュニティの場として、地域の祭りや行事の継承・発展にも大きく貢献しています。観光も含め、商店街には多様な役割を果たすことが期待されており、商店街を核とした協働の取組を支援することは重要です。 さまざまな主体と連携しながら主要な取組の「商店街が学生や地域住民を巻き込んで実施するまちづくり活動への支援」等に取組んでまいります。
・商店街を挙げた楽しい場・イベントがあると、もっと素敵なまちになるのではないかと。 ・厳しい経営状況にある繁華街等が活気を取り戻し、人が集まる拠点となるまちになってほしい。 ・商店街の活性化のため交流のきっかけを作ることはよいが、学生や地域住民が主軸になってはいけない。あくまで商店街側が主軸であり、自走するという意識が重要である。	②「協働による商店街の活性化」に記載しましたとおり、商店街は、区民の日常の暮らしを支えるとともに、地域住民、学生、事業者等の多様なひとびとが集まるコミュニティの場として、地域の祭りや行事の継承・発展にも大きく貢献しています。コロナ禍で、商店街にはますます多様な役割を果たすことが期待されており、商店街が核となった協働の取組を支援することは重要です。 さまざまな主体と連携しながら主要な取組の「商店街が学生や地域住民を巻き込んで実施するまちづくり活動への支援」等に取組んでまいります。

・商店街はイベントもあり楽しい。できるだけ商店街で買い物したほうがいい。 ・商店街はコロナで大ダメージである。商店街で買い物するよう指導するぐらい思いきった取組をしてもらいたい。 ・活気づいた商店街で買い物を楽しめるまちになってほしい。 ・長年地域を支えてきた商店や商店街、中小企業は、中京区の貴重な財産である。目先の利益のために大手や海外資本に頼り、このよさを潰さないよう取り組んでほしい。	②「協働による商店街の活性化」に記載しましたとおり、商店街は、区民の日常の暮らしを支えるとともに、地域住民、学生、事業者等の多様なひとびとが集まるコミュニティの場として、地域の祭りや行事の継承・発展にも大きく貢献しています。コロナ禍で、商店街の果たす役割にますます期待が高まるなか、商店街のにぎわいづくりを支援することは重要です。 さまざまな主体と連携しながら主要な取組の「区民の暮らしを支える商店街の利用の呼びかけやにぎわいづくりへの支援」等に取り組んでまいります。
・学生が非常に多いまちなので、大学生とさらに連携を深めて若い意見を取り入れてほしい。 ・コロナ禍のため学外活動が制限されているが、早く活動できるようになってほしい。 ・大学との連携は感染症対策に気をつけて実施すれば、さまざまな世代の交流にも繋がるのではないか。	③「大学との連携」に記載しましたとおり、「大学のまち京都・学生のまち京都」では、国内外から集まる学生がキャンパスを飛び出すことで学びを深めるとともに、まちの活性化に貢献してきました。 大学の有するひと、知識、情報等の資源をまちづくりに生かせるよう、主要な取組の「大学の教育・研究活動や地域活動を望む学生と地域団体等とのマッチング」等に取り組んでまいります。
・雇用創出に力を入れ、魅力ある職場と区民、市民をしっかりマッチングさせる仕組みをつくってほしい。 ・魅力のある働く場を区や市が企業と連携し、つくってほしい。	④「地域企業との連携」に記載しましたとおり、中京区内には地域の祭りや福祉等の地域活動を支える企業が多数存在し、まちづくりの担い手として活動しています。 主要な取組の「次代を担う若者が地域企業と交流する機会の創出」等に取り組むなど、地域企業の取組を見える化することで、地域内雇用の創出につなげてまいります。

・乳幼児の孤立化，高齢者の孤立化を防止するため，多くの企業に参加していただくことが重要である。まずは御池通をモデルに，防犯や子育て世帯の応援，安全への配慮等への協力を呼びかけ，地域とともに活性化してほしい。	④「地域企業との連携」に記載しましたとおり，中京区内には地域の祭りや福祉等の地域活動を支える企業が多数存在し，まちづくりの担い手として活動しています。 企業のまちづくり活動へのさらなる参画を促進できるよう，主要な取組の「地域企業と住民，NPO，学生等とのオープンな対話の場により地域課題を解決するための新たな商品・サービスの開発に向けた場づくり」等に取り組んでまいります。
・中京区内のひとの交流がもっと活発になってほしい。地域企業への支援が「対話の場」とあるが，それがどう支援につながるのかわからない。	中京区内には地域の祭りや福祉等の地域活動を支える企業が多数存在し，まちづくりの担い手として活動しています。地域内雇用を促進していくには，こうした地域企業の取組が見える化し，就職を控える若者等に地域企業の存在を知ってもらう機会をつくっていくことも重要です。こうしたことも念頭に，主要な取組の「次代を担う若者が地域企業と交流する機会の創出」等に取り組んでまいります。 また，さまざまな主体と企業が地域課題を解決するためのアイデア等を話し合う場として「対話の場」づくりにも取り組んでいくことで，企業のまちづくりへのさらなる参画を促進してまいります。

・事業を始めてみようと思えるチャンスに満ちたまちになってほしい。	⑤「スタートアップ・エコシステムの形成と社会課題解決型ビジネスの集積」に記載しましたとおり、近年、中京区内では新たなビジネスモデルで急成長をめざすスタートアップ企業や社会課題解決を目的に新しい事業を展開する社会的企業が活躍しています。 地域課題や社会課題の解決につながる多くの新しいビジネスアイデアが生まれるまちをめざし、主要な取組の「地域課題や社会課題解決のための多様な主体が集い協働・協創する場の創出」等に取り組んでまいります。
・⑤「スタートアップ・エコシステムの形成と社会課題解決型ビジネスの集積」を進めていくにあたり、科学技術で対応できる地域課題抽出の手法のひとつとして中京クーパーセンターとの連携を記述してはどうか。	⑤「スタートアップ・エコシステムの形成と社会課題解決型ビジネスの集積」に記載しましたとおり、産学公連携に市民も加えた多様な主体が協働できる場づくりを進めることでネットワークを構築し、スタートアップ・エコシステムを形成することにより、地域課題や社会課題の解決につながる多くの新しいビジネスアイデアが生まれるまちをめざしていくことが重要です。 いただいた御意見も参考に、主要な取組の「地域課題や社会課題解決のための多様な主体が集い協働・協創する場の創出」等に取り組んでいくにあたっては、第5章「計画推進のしくみ」に記載している中京クーパーセンターのしくみも活用してまいります。

【戦略6：安心・安全に住み続けられるまちづくり】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・防災にもっと力をいれてほしい。中京区ならば防災に協力する企業もあるのではないか。小さなことでもよいので、企業が地域を守る企業宣言を行うような仕組みもよい。	御指摘のとおり、近年、災害が激甚化するなか、防災・減災の取組は大変重要な課題であり、企業も含めた多様な主体と連携・協力し、協働して取組を進めていくことが重要であると認識しております。 ②「防災・減災に向けた日常的な協力関係の構築」に、「地域の事業者や商店街等と連携して」との文言を追加し、「自治連合会や自主防災会、消防団をはじめ<u>地域の事業者や商店街等と連携して</u>、まちの危険箇所の対策や避難所運営訓練を行うなど、地域における防災・減災の取組の支援を強化します。」に修正します。
・歩道の段差がない障害のある高齢者が出かけたくなるようなまちになってほしい。京都市全体で障害者にやさしいまちづくりを考えてほしい。 ・歩道傾斜が設定されており、歩きにくく、避けにくい。 ・「歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立」は重要である。歩行者空間の創出は、世界的にもトレンドとなっているので、加えてはどうか。	御指摘のとおり、安心・安全で、日々のくらしや生業の空間として魅力的なまちなかをめざす「通りの復権」を実現するには、障害のある方をはじめだれにとっても快適なまちづくりを進めることが重要であると認識しております。 ②「歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立」に記載している「歩行者優先のまちづくりをめざし」を「だれにとっても快適な歩行者優先のまちづくりをめざし」に修正します。

・観光公害と言うひといたが、コロナ禍で観光も大切であることがわかったと思う。マナー問題については、外国人が全て悪いわけではなく、日本人でも知らないひとがいる。マナー啓発は外国人に限定するのではなく、日本人にもしっかりやってほしい。	御指摘のとおり、中京区には、国内外から多くの観光客が訪れる一方、京都の文化や習慣に対する理解が十分に浸透していないため、トラブルが発生するケースも見られ、外国人だけでなく日本人へのマナーの普及啓発も重要であると認識しております。 ②「観光客へのマナーの普及」の主要な取組の「関係者と連携した外国人観光客に対するマナー情報の発信」を「観光関連事業者等と連携した観光客に対するマナー情報の発信」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・防犯など、安心・安全の取組に力を入れてほしい。財源が厳しくても予算を削るべきではない。 ・中京区は安心・安全のまちである。いつまでもこの素敵なまちが続くよう応援している。 ・災害時には被害が少ない、また、犯罪や事故のないまちになってほしい。	①「安心・安全ネットワークの充実」に記載しましたとおり、防犯や防災、感染症対策、子どもの安全、地域福祉等の幅広い分野で、地域の安心・安全ネットワークの充実を図り、多様な課題に柔軟に対応できるまちを実現することが求められています。 安心・安全に住み続けられるまちづくりをめざし、主要な取組の「区内の関係機関と地域、事業者が連携した安心・安全の取組の実施」等に取り組んでまいります。

・新型コロナウイルス感染症対策として、店だけでなく、バスや駅等にも消毒液を置くなど、感染者を減らすことができればよい。	①「安心・安全ネットワークの充実」に記載しましたとおり、感染症対策をはじめ安心・安全な地域づくりには、事業者や関係機関との連携が重要です。とくに新型コロナウイルスへの対応については、京都市では市民、事業者の皆さんと危機感を共有し、命と健康、暮らしを守るため、感染予防やワクチン接種、生活支援、経済対策等に、全庁を挙げて取り組んでいます。 一日も早い新型コロナウイルスの収束に向け、主要な取組の「区内の関係機関と地域、事業者が連携した安心・安全の取組の実施」等に取り組んでまいります。
・子どもの登下校を見守るため、地域の高齢者が家の前にいてくれれば助かる。 ・街路帯にベンチやサポートステーションがあれば、高齢者の居場所づくりやまち歩きの促進につながり、安心・安全なまちになる。 ・マラソンランナーが気軽に休憩できるように、有料のシャワースポットや脱衣所等があればよい。まちなかにひとが動いている状況は安心・安全なまちづくりにつながる。 ・御池通をモデルに、企業、地元店舗に子育て世帯の見守りや防犯等への協力を呼びかけてはどうか。 ・街灯の少ない道は、夜は真っ暗になる。パトロールや防犯カメラの設置を進める必要がある。	①「安心・安全ネットワークの充実」に記載しましたとおり、安心・安全な地域づくりには、地域住民をはじめ事業者や関係機関との連携が重要です。 安心・安全に住み続けられるまちづくりをめざし、主要な取組の「地域における防犯活動や見守り活動への支援」等に取り組んでまいります。

・地震や台風に加え、コロナ対策も含めた避難所の整備を急ぐ必要がある。 ・昭和初期の鴨川氾濫や平成 30 年の水害など、京都でも多くの災害の被害が出ている。京都には花折断層があり、南海トラフ地震の影響も心配される。また、近年は風水害の被害も大きくなっている。改めて、実地型防災訓練や避難所運営訓練など、防災意識を高める取組を進めてほしい。 ・災害時に動ける人間は限られている。組織の活動も重要であるが、避難所に集まったひとがだれでも活動できるマニュアルづくりが必要である。 ・災害時は車中泊をする被災者も多いので、学校や企業のグラウンドを開放してはどうか。また、ホテルの空室も避難所として活用してはどうか。 ・災害に備え具体的な避難計画を定めておく必要がある。現在の避難施設だけでは全員を収容することは不可能ではないか。パニックにならないよう事前にケーススタディしておく必要がある。 ・災害に強く、ひとのつながりがあり、思いやりのあるまちとなってほしい。 ・台風やゲリラ豪雨等が年々ひどくなっている。災害に強いまちになってほしい。	②「防災・減災に向けた日常的な協力関係の構築」に記載しましたとおり、自治連合会や自主防災会、消防団をはじめ地域の事業者や商店街等と連携して、まちの危険箇所の対策や避難所運営訓練を行うなど、地域における防災・減災の取組を強化することが重要です。 日頃から住民同士の顔が見える関係づくりを後押しするとともに、避難所の運営をはじめ万一の災害に備え、「感染症の影響も想定した防災対策の確立と地域住民による実践型防災訓練の開催支援」や「要配慮者（乳幼児や妊産婦、高齢者、障害者等）の避難支援の取組の促進」等に取り組んでまいります。

・通学路の安全確保を徹底しなければならない。商店街での買い物客や歩行者の安全確保、自転車への指導も必要である。 ・京都市の民度は中京区が上げていくというぐらいの気概をもち、まずは自転車は左側を走ることを徹底していきたい。 ・自転車専用道路を増やしてほしい。 ・細い道路をものすごいスピードで車が走り、信号無視をする。路上駐車も多いなど、京都のまちは歩いていると常に危険と隣合わせである。交通安全を意識させるような取組を進めれば、地域交流やまち歩きツアー等も開催しやすくなる。	③「歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立」に記載しましたとおり、安心・安全で、日々のくらしや生業の空間として魅力的なまちなかをめざす「通りの復権」を実現するには、まずはクルマ中心の単なる通過空間ではない「歩くこと」を中心としたまちに転換することが重要です。 だれにとっても快適な歩行者優先のまちづくりをめざし、クルマや自転車の交通ルールの順守やマナー向上の取組を推進するとともに、主要な取組の「親子で楽しく交通ルールやマナーを学べるイベントの開催」等に取り組んでまいります。
・タクシーが半分くらいに減れば渋滞や事故も減るのではないか。	③「歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立」に記載しましたとおり、安心・安全で、日々のくらしや生業の空間として魅力的なまちなかをめざす「通りの復権」を実現するには、まずはクルマ中心の単なる通過空間ではない「歩くこと」を中心としたまちに転換することが重要です。 だれにとっても快適な歩行者優先のまちづくりをめざし、クルマや自転車の交通ルールの順守やマナー向上の取組を推進するとともに、主要な取組の「地域の団体や学校と連携した「通り」の安全を確保する取組の推進」等に取り組んでまいります。

・毎年京都へ観光に来てもらえるようにもてなすことで、国内旅行者を増やしたい。地元住民とのつながりを強くし、くらすように旅ができるまちをめざしたい。だれもが安心して過ごせる多様性にあふれたまちにしたい。 ・今はコロナの影響でインバウンドの数も少なく、経済的にもこれでは困る。ずっと続くわけではないが、世界文化自由都市宣言もあり観光にも力を入れているなか、これからのまちづくりのために何がベストかを考えていく必要がある。 ・コロナ禍を踏まえ、インバウンドに頼らなくても成り立つ観光を確立してほしい。 ・経済対策上、観光業は重要であるが、コロナ禍のこの機会に生活者の日常も含め、コロナ禍後の京都をあらためて考えていく必要がある。	④「観光客へのマナーの普及」に記載しましたとおり、中京区には、国内外から多くの観光客が訪れる一方、京都の文化や習慣に対する理解が十分に浸透していないため、トラブルが発生するケースも見られます。 ポストコロナを見据え、市民生活を最優先に、安心・安全、豊かさの向上、地域文化・コミュニティの継承・発展につながる「市民生活・地域コミュニティと観光の更なる調和」を推進するため、主要な取組の「観光資源の魅力の背景にあるくらしの文化の発信」等に取り組んでまいります。
・戦略6を進めるには、地域のくらしや文化について観光客に理解してもらい、マナーを守ってもらうことが重要である。そのためには、地元もあたたかく観光客を迎える気持ちを大切にし、文化や慣習の違いを相互に理解する必要がある。観光事業者等と地域とのつながりをさらに深め、市民と観光客双方にとって安心・安全な環境を整えることにより、市民が豊かさを実感できるまちになってほしい。 ・住民と観光客が共存できるよう、さまざまな取り決めを事前に決めておき、だれにでもわかりやすい情報発信をしていくことが重要である。 ・中京区は市外から観光や仕事で多くのひとが来るまちである。自転車や車、歩行者の歩き方など、日本人も含めた観光客のマナーの悪さが目立つ。観光客への啓発も重要	④「観光客へのマナーの普及」に記載しましたとおり、中京区には、国内外から多くの観光客が訪れる一方、京都の文化や習慣に対する理解が十分に浸透していないため、トラブルが発生するケースも見られます。 観光客へのマナーの普及を図ることで、市民生活を最優先に、安心・安全、豊かさの向上、地域文化・コミュニティの継承・発展につながる「市民生活・地域コミュニティと観光の更なる調和」を推進するため、主要な取組の「観光関連事業者等と連携した観光客に対するマナー情報の発信」等に取り組んでまいります。

- である。
- ・観光客を呼ぶための工夫と同時に、地域住民の住みやすさを損なわないための工夫が必要である。
  - ・5年後は、外国人観光客が戻ってくると思う。観光客が比較的少ない今のうちに環境整備、システムの改善等を進め、多くの観光地や宿泊施設がある中京区でよりよい受入れ環境が整うことを願う。
  - ・コロナ禍が落ち着けば観光客が戻ってくる。観光客が多くなりすぎ、混雑するなど、以前と同じ状態にならないよう、先手を打つ必要がある。
  - ・最近では錦市場でも食べ歩きが増えている。もう少し昔のように歩きやすくなってほしい。
  - ・主要な駅周辺や道路にひとが集中しやすい点がもう少し解消できれば、より過ごしやすいまちになる。
  - ・観光客に来てほしいが、多すぎず、適度な人数がよい。
  - ・コロナ禍前の外国人観光客があふれ、ホテルや民泊がどんどん増える状況には戻ってほしくない。極端になりすぎないように、バランスよく発展してほしい。
  - ・民泊や小規模な宿泊施設が増え、住居地域に観光客の出入りが多くなり、何となく不安に感じるが多かった。新型コロナの流行で観光客が減り、安心と平穏が戻った。経済的には打撃であるが、このままの状態をいてほしいという気持ちもある。コロナ禍の収束後も、観光客があふれないような対策をとってほしい。
  - ・歩きやすく明るいまちが望ましい。一方で住人にとっては他所の人が歩き回るの、落ち着かない。観光エリアと生活エリアが

分かれているのがよいと思う。	
• 空き家活用の促進については空き家にならないような施策が必要である。結婚で子どもが出ていった場合、夫婦だけではいずれ空き家になる。子どもが戻ろうと思っても相続税の問題や京町家の場合は改修も必要になるので、結局放置や売却となっている。相続上の利点となる小規模宅地の特例等を広報することも必要である。 • 高齢化が進み、町内活動では 60 歳代が若手となっている。交通や買い物等、利便性の良い場所だけに人口が増えることを期待している。空き家の状況等を把握し、移転や入居希望者へ情報発信をしていく仕組みがあればよいと思う。	⑤「空き家活用の促進」に記載しましたとおり、老朽化した空き家の放置により、生活環境や景観の悪化、防犯・防災上の課題が生じており、課題解決には必要な情報の発信の強化等が求められています。 空き家の活用と解消に向けて、主要な取組の「司法書士等の専門家と連携した情報発信」や相談窓口の実施等の支援に取り組んでまいります。
• 自身の学区はインフラが整い便利になっているが、空き家や更地が多く今後が不安である。高齢者も多く人口の増加が見込めないため、先の見通しが無い。 • 空き家を防災倉庫として活用できればよい。 • 中京区には限られた面積のなか、伝統産業、オフィス、商業施設等が既に数多く存在している。空き家がある一方で新たなマンションが建設されるような土地の使い方をするのではなく、今あるものを今いるひとでうまく回していくような活用ができればよい。 • 市外に居住する若い職員を京町家に居住させる仕組みがあればよい。交通費の削減や住民税増加の効果がある。京都市の職員が自治活動に参加することで、まちの活性化にも寄与する。	⑤「空き家活用の促進」に記載しましたとおり、老朽化した空き家の放置により、生活環境や景観の悪化、防犯・防災上の課題が生じており、課題解決のために、必要な情報の発信の強化等が求められています。 空き家の活用と解消に向けて、主要な取組の「空き家の適正管理対策と活用に取り組む地域への支援」等に取り組んでまいります。

【戦略7：持続可能なライフスタイルの継承・発展】

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・家庭や事業所での取組は、緑化だけでなく、小規模な太陽光発電，太陽熱利用，雨水利用等も加えてはどうか。	御指摘のとおり，家庭や事業所での省エネルギーの取組については，太陽光発電等の自然エネルギーの利用を進めていくことが重要です。 各家庭で取り組んでいただけるよう，①「より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換」の主要な取組の「家庭・事業所での省エネルギーの取組促進」を「家庭・事業所での<u>太陽光発電や雨水利用の普及など</u>，省エネルギーの取組促進」に変更します。
・緑化とまちの美化の促進は，だれでも参加できるわかりやすい取組である。御池通で進んでいる市民による緑化は，中京区ならではの取組である。屋上やベランダ，庭先が例として挙げられているが，沿道も加えてはどうか。	御指摘のとおり，中京区では多くの区民の皆さまの御協力の下，御池通をはじめとした沿道での緑化活動が活発に実施されています。 ④「緑化とまちの美化の促進」の主要な取組の「家庭や事業所における屋上やベランダ，庭先での緑化の促進」を「家庭や事業所における屋上やベランダ，庭先，<u>沿道</u>での緑化の促進」に変更します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・環境問題は深刻である。ひとりひとりができることをやらなければならない。 ・生物多様性，昆虫・環境保護をキーワードにひとりひとりができることに取り組まなければならない。 ・環境問題は重要である。台風も巨大化している。	リード文に記載しましたとおり，地球温暖化は，自然災害の頻発や健康被害，水や食料不足に加え，生物多様性の損失をもたらすなど，わたしたちの暮らしにとって大きな脅威になりつつあります。2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」に向け，環境に配慮したライフスタイルやまちなか緑化の取組を推進していくことが重要であると認識しています。 今後とも，本計画に基づき，持続可能な社会の実現に貢献できるよう取組を進めてまいります。
・持続可能なライフスタイルの継承・発展を中京マチビト Café でとりあげてほしい。	リード文に記載しましたとおり，50年後，100年後も持続可能なまちであり続けるには，ひとりひとりがこれまでの生活を見つめ直し，環境負荷を低減させるための具体的な行動を実践していくことが重要であると認識しています。 今後とも中京マチビト Café をはじめ，区民の皆さんや事業者，大学等と議論を深め，連携しながら持続可能なライフスタイルの継承・発展に向け取組を進めてまいります。

・2050年までにカーボンゼロをめざす世界的な動きのなかで、京都で何ができ、中京区では何をしていくのかということ計画のなかに盛り込んでほしい。	リード文に記載しましたとおり、2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」に向け、京都市として取組を進めていくなか、国内外から多くのひとが訪れる、伝統と進取の気風をもつ中京区から、環境に配慮したライフスタイルやまちなか緑化の取組を推進し、広く発信していくことが重要であると認識しています。 本計画では、持続可能な社会の実現に向けた取組をまちづくり戦略7に記載しており、その推進に当たっては、区民の皆さんや事業者、大学等と行政がそれぞれの役割を認識し、連携しながら進めてまいります。
・まちづくり戦略に環境保護が入っているのはよいことである。エシカル消費が普及しているまちになってほしい。 ・エシカル消費が当たり前のまちになるよう、エシカル消費の普及を考えてほしい。 ・QUESTIONビルでエシカル消費のイベントが実施されている。こうしたことをもっと多くのひとに知ってほしい。 ・エシカル消費もPR不足でまだ普及していない。環境意識の高い会社の製品を買うよう働きかけてほしい。 ・エシカル消費など、なぜ環境に配慮した消費活動が重要なのかについて、学校の授業で取り扱う必要がある。 ・環境によい行動は未来のために必要であり、それが何かを知ってもらい、必要性を感じてもらうことが行動につながる。ただ、エシカルの商品はコストが高く、使い勝手が悪い等のイメージがある。こうした問題も含め対応していくことが必要である。 ・企業も子育てを支えるイチバンボシギフトは素晴らしい取組である。フェアトレード	①「より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換」に記載しましたとおり、限られた資源を有効利用し、持続可能なまちづくりを推進していくには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を転換していくことが重要です。 企業とも連携し、生産から消費、廃棄まであらゆる段階での意識と行動の変革をめざし、主要な取組の「エシカル消費（倫理的消費）など、環境に配慮した消費行動の普及啓発」等に取り組んでまいります。

の観点から企業と協力して温暖化対策も進めてほしい。	
・ごみゼロをめざすことが重要である。 ・環境分野の専門家が計画立案や事業実施にかかわることも必要であるが、生活のなかでできる省エネやごみ減量の方法についてまだまだ知らないひといるので市民に周知すべきでは。 ・SDGs や持続可能な生物的環境をめざし、草木類の自己処理を行うことが重要である。まずは企業に積極的に取り組んでほしい。区役所屋上庭園でもごみはコンポスト化して土に戻している。 ・環境に配慮したまちづくりを進めていくには、紙媒体での広報を減らしていく必要がある。「まずはチラシ」ではなく、SNS やHP を活用した発信を考えるべきである。 ・紙の広報誌は、高齢者には必要であるが、若者は見ない。環境に配慮したまちづくりを進めるには、行政もごみを減らしていくことが必要である。 ・市民しんぶんの配布に関し、地域負担や委託料が問題になっている。自治活動への支援という側面もあるので一概に廃止するのは難しいが、紙資源の節減にもつながるので積極的に IT 技術を活用し発行部数を減らした方がよい。スマートフォンの普及率も7割近くであるのでQRコード等を活用し、HP に誘導する方法でよく、紙媒体が必要な方はコンビニエンスストアで入手してもらえばよい。 ・中京区のエコバックをつくってほしい。	①「より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換」に記載しましたとおり、限られた資源を有効利用し、持続可能なまちづくりを推進していくには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を転換していくことが重要です。 いただいた御意見も参考に、省エネやごみ減量をめざし、主要な取組の「エシカル消費（倫理的消費）など、環境に配慮した消費行動の普及啓発」等に取り組んでまいります。 なお、広報の方法については、内容や対象者に応じて最適な方法を検討してまいります。

・夏にはグリーンカーテンを設置し、室内温度を下げる事が重要である。クーラーの設定も 28℃設定から 30℃設定にするキャンペーンを行えばよい。	①「より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換」に記載しましたとおり、限られた資源を有効利用し、持続可能なまちづくりを推進していくには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を転換していくことが重要です。 いただいた御意見も参考に、主要な取組の「家庭・事業所での太陽光発電や雨水利用の普及など、省エネルギーの取組促進」等に取り組んでまいります。
・いずれの取組もよい。とくに「過度にクルマに依存しないライフスタイルの普及啓発」は、主要道路が混雑しがちな現状にもマッチしており、効果が期待できる。 ・車の利用を減らすノーマイカーデーの取組を進め、環境に配慮したまちになってほしい。 ・路上駐車車両が多く、自転車で車道を走るのが非常に危険である。バスレーンを確定し、自転車とバスが共存すれば渋滞もかなり解消方向に進むのではないか。 ・自転車が使いやすい環境を整えてほしい。 ・自転車中心のまちであることは当面変わらないと思う。自転車移動を中心としたまちづくりを進めてほしい。 ・京都市全体で自転車で回れるまちづくりを計画してほしい。 ・自転車がスムーズに通れる道や駐輪場が充実してほしい。 ・市内各所に駐輪場が増え、かつわかりやすい地図もあれば放置自転車が減り、京都の中心区として、さまざまなひとにとって過ごしやすいまちになる。 ・自転車専用道路を各所に整備してほしい。	③「環境に配慮した交通手段の利用促進」に記載しましたとおり、公共交通機関が充実し、徒歩や自転車での移動も容易な中京区から、過度にクルマに依存しない生活の機運を高め、率先してエコな移動方法を選択する運動を展開することが重要です。 環境はもとより、健康にもやさしいまちをめざし、主要な取組の「過度にクルマに依存しないライフスタイルの普及啓発」等に取り組んでまいります。

・区役所の開庁時間には、民間の駐車場を京都市で借り上げて格安料金で提供するなど、駐車場を確保してほしい。路上駐車が多く迷惑している。 ・少子高齢化社会を見据えて、公共交通機関で気軽にまわれるまちになってほしい。区役所には高齢者のための駐車場の確保や区役所と地下鉄の直結等も実現してほしい。	③「環境に配慮した交通手段の利用促進」に記載しましたとおり、公共交通機関が充実し、徒歩や自転車での移動も容易な中京区から、過度にクルマに依存しない生活の機運を高め、率先してエコな移動方法を選択する運動を展開することが重要です。 環境はもとより、健康にもやさしいまちをめざし、主要な取組の「過度にクルマに依存しないライフスタイルの普及啓発」等に取り組んでまいります。 なお、こうしたなか、区役所でも駐車場は障害のある方等のための「おもいやり駐車場」のみの運営にするなど、公共交通機関を利用いただくよう取組を進めておりますが、同時に交通渋滞や事故につながる路上駐車防止に向けた取組についても推進してまいります。
・花と緑の豊かなまちになってほしい。 ・自然が豊かなまちになってほしい。 ・緑豊かなまちになってほしい。 ・自然を感じることができるよう、木や花を植えていく必要がある。 ・農地とも連携した緑の多いエコなまちになってほしい。 ・条例等で新しいビルやマンションの屋上緑化を促進すれば少しでもまちに緑が増えるのではないか。	④「緑化とまちの美化の促進」に記載しましたとおり、持続可能な社会の実現のためには、身近な緑を増やすまちなか緑化の取組や、かど掃きや一斉清掃等の地域で活発に行われている環境美化活動を促進することが重要です。 環境にもひとにもやさしいまちづくりをめざし、主要な取組の「家庭や事業所における屋上やベランダ、庭先、沿道での緑化の促進」等に取り組んでまいります。

・子どもが学べば親も興味をもつので、環境学習にもっと力を入れてほしい。 ・子どもと花を植えるイベントをしてほしい。 ・緑が少ない中京区だからこそ自然環境や生物多様性の取組を進めてほしい。 ・区役所の屋上庭園でコンサート等のイベントをやしてほしい。 ・区役所の屋上庭園のみつばち飼育は、自然の豊かさを教えてくれるよい取組である。 ・ひとにもみつばちにも快適な都市環境をめざしてほしい。 ・区役所の屋上庭園のみつばちの飼育はおもしろい。はちみつの販売もしてほしい。	④「緑化とまちの美化の促進」に記載しましたとおり、持続可能な社会の実現のためには、身近な緑を増やすまちなか緑化の取組や、かど掃きや一斉清掃等の地域で活発に行われている環境美化活動を促進することが重要です。 環境にもひとにもやさしいまちづくりをめざし、主要な取組の「次代を担う子ども向けの緑化や生物多様性も含めた環境に関するイベントの開催」等に取り組んでまいります。
・公園など、市民が自らまちをきれいにしている姿を見て、自身も実践するようになった。道にごみを捨てる人がいなくなれば、子どもたちもくらしやすくなる。 ・ポイ捨てやごみをなくす運動を進めてほしい。 ・テロ対策等でごみ箱が撤去されたことで、自分のごみは自宅へもち帰ることが普通になり、美しいまちになった。	④「緑化とまちの美化の促進」に記載しましたとおり、持続可能な社会の実現のためには、身近な緑を増やすまちなか緑化の取組や、かど掃きや一斉清掃等の地域で活発に行われている環境美化活動を促進することが重要です。 環境にもひとにもやさしいまちづくりをめざし、主要な取組の「区民ぐるみで進める環境美化活動の促進」等に取り組んでまいります。

第5章（計画推進のしくみ）に関する御意見

◆ 最終案に反映させていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・中京クーチャーセンターはおもしろいと思った。イラストか写真等で楽しそうなイメージが伝われば参加するひとも増えるのではないか。	中京クーチャーセンターのイメージがより伝わるようイラスト等を追加します。

・中京クーチャーセンターのイメージがつきやすいように、記述のなかにこれまでの実績を挙げてはどうか。また、中京マチビト café との関わりも含めて記述してはどうか。 ・今後の展開に当たっては、計画推進のしくみ（第5章）が重要である。目玉である中京クーチャーセンターの情報がわかるようホームページへの誘導や過去の相談事例を載せてはどうか。	中京クーチャーセンターの説明に、過去にもち込まれた相談事例を追加するとともに、今後ホームページ等での発信も充実させていきます。 また、中京クーチャーセンターは中京マチビト Café と密接にかかわっていることから、本文を「本計画では、第2期計画で取り組んできた<u>まちづくりに関心のあるひとが交流する中京マチビト Café の開催</u>など、従来までの取組も踏まえ、推進体制のレベルアップを図ることで、中京区でまちづくりに取り組んでいるひとや組織の輪をつくり、互いの交流・連携・協働の取組を広げていきます。」に修正します。

◆ 審議の参考とさせていただいた御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・中京マチビト Café のような交流の場は今後も続けてほしい。中京クーチャーセンターも、多様な主体との対話というのがよいと思う。しっかり進めてよいまちにしていきたい。 ・中京マチビト Café のような参加、交流のしくみはよい。中京クーチャーセンターのしくみで企業等も含め、一緒に進めていくのはいいことだ。 ・中京クーチャーセンターの取組に関心がある。地域課題の発信や課題に取り組む担い手の発掘を進めてほしい。 ・人口や出生率が増えて、にぎわいがあるまちをつくってほしい。わたしも中京区のまちづくりに参加し、アイデアを出していきたい。	中京マチビト café は、まちづくりの輪を広げる交流の場として、これまで多くの自主的な活動を生んできた重要な取組です。今後は、本文及びイメージ図に記載しましたとおり、フューチャーセンターの中京区版である「中京クーチャーセンター」のなかに、中京マチビト café を取り込むなど、機能を拡大することにより、地域課題の発見や課題に取り組む担い手の発掘を強化し、多様な主体を巻き込み、対話や協働を促すことで、新しいアイデアやしくみ、プロジェクトを立ち上げることで、今後とも区民のみなさんや企業など、多くの方々に参加いただきながらまちづくりを進めてまいります。

・区民が計画の策定や政策の実施に、もっと関わりやすい環境をつくってほしい。パブリックコメントに限らず、区民の声を拾う取組を形骸化することなく生かしていくことが重要である。特に若者が政治の有効性感覚を得られるような取組等を積極的に行えば、市政、国政への参画の入口にもなる。 ・京都市は市民協働を掲げているが、もっと市民を信じオープンな場で議論すべき。市民がやりたいことがやれるよう、行政は市民活動を後押ししていくぐらいの姿勢が求められている。	本計画の策定に際しては、区民の声を直接反映させるため、中京マチビト Café 特別編「マチビト×中京の未来予想図」の開催、素案への区民意見募集、最終案へのパブリックコメントの実施など、策定の各段階において区民の皆さんに積極的に参画していただきました。また、計画の実施に当たっても、本文及びイメージ図に記載しましたとおり、フューチャーセンターの中京区版である「中京クーチャーセンター」では、中京マチビト Café を取り込むなど、機能を拡大することにより、地域課題の発見や課題に取り組む担い手の発掘を強化し、多様な主体を巻き込み、対話や協働を促すことで、新しいアイデアやしくみ、プロジェクトを立ち上げることとしており、今後とも区民のみなさんをはじめ多くの方々に参加いただきながらまちづくりを進めてまいります。また、こうした取組を広く知っていただくため、さまざまな手法を用いた丁寧な周知にも努めてまいります。

・区民がより解決すべきだと望んでいる課題から取り組んでいくべきであり、それを適切に汲み取り、適切な手段をもって解決に導いていくことが重要である。目的に対する適切な手段を採択し、さらに、その取組が適切であるかを評価することも必要である。区職員にはよりよい社会を形成するために尽力してほしい。私自身もそれを後押しできればよいと思う。	本計画は、まちの姿（現状）、まちづくりの課題、今後のまちづくりの方向性、目標実現に向けた戦略、計画推進のしくみの5つの章で構成しています。区民共汗型の計画である本計画に掲げるすべての施策は、区民の皆さんや事業者、大学等と行政がそれぞれの役割を認識し、連携しながら進めるものであり、地域をよりよいものとするため、自治活動をはじめとしたまちづくり活動に積極的に参加することが期待されます。そして区役所には、区民活動が行われる基盤づくりや活動への支援が求められていると認識しています。 第4章「目標実現に向けた戦略」の各分野の「まちづくり戦略」に記載する主要な取組を実施するに当たっては、中京クーチャーセンターの機能を最大限にいかし、区民の皆さんをはじめ多様な主体の参加の下、対話のなかで課題やニーズを共有しながら進めてまいります。

その他（計画の推進等）に関する御意見

御意見の要旨	御意見に対する考え方
・中京区が「住みたい区」としてひとびとに選ばれるよう、また、住んでいるひとたちが毎日を心豊かに過ごせるように、さまざまな施策が必要である。7つのまちづくり戦略には今後必要なコンセプトが含まれている。これを中京区内外に発信していくことが重要である。 ・まちづくりの目標や計画構成もしっかりしている。SDGsも計画に組み込まれ、めざすビジョンが明確化しておりとてもわかりやすい。今後は、ひとりでも多くの区民に周知していくことが必要である。 ・計画の内容はわかりやすい。パブリックコメント冊子のデザインもよかったが、それでも周りのひとにあまり知られていなかった。SNSやWEBも含めもっとアピールしていけばいい。 ・情報発信するべき。 ・とてもよく考えられた計画だと思うが、中京区民は、この計画について知らないひとのほうが多いと思う。動画の発信や大学のまちづくりを研究するゼミに冊子を配るなど、もっと計画について広報する必要がある。 ・たくさんのひとに計画を知ってもらえるよう、いつでも、どこでも誰もが見られて、書き込める SNS 等を活用すればよいと思う。 ・さまざまな区民の意見を取り入れながら計画策定を進めてきたと思うが、若者にはまだまだ知られていないのではないか。今後の中京区を担う若者にどうすれば知ってもらえるのかをさらに突き詰めていく必	「共汗型計画」である本計画に掲げるすべての施策は、区民の皆さんや事業者、大学等と行政がそれぞれの役割を認識し、連携しながら進めるものであり、地域をよりよいものとするため、自治活動をはじめとしたまちづくり活動に積極的に参加していただくことが期待されます。 計画の策定に当たっては中京マチビト Café 特別編「マチビト×中京の未来予想図」の開催、素案への区民意見募集、最終案へのパブリックコメントの実施など、策定の各段階において区民の皆さんに積極的に参画していただきました。 計画を推進するに当たっても、より多くの皆さんに知っていただけるよう、市民しんぶんやホームページ、SNSの活用など、積極的な広報活動に取り組んでまいります。

要がある。 ・区役所の計画や情報が若年層にも届くよう、SNSによるアピールを増やした方がよい。	
・公園を増やしてほしい。(＊) ・静かで落ち着ける公園がほしい。 ・大きな遊具を取り揃えた公園を増やし、子どもたちがのびのびと楽しく過ごせる場所を確保してほしい。 ・アスレチックが充実している大きな公園をつくってほしい。 ・子どもが自由に遊べる広い公園のあるまちになってほしい。 ・運動器具のある公園が必要。看板で近くの公園までのマップを掲示すれば、さらに歩いて次に行ける。 ・使っていない小中学校等の施設は、活用が決まるまで公園にしてほしい。 ・島津アリーナのような体育館など、公立の運動施設が増えてほしい。 ・バスケットボールやバレーボールができる体育館など、スポーツ施設がもっとあったらよいと思う。 ・中京区は図書館が少ない。区役所や大丸に図書館を設置してほしい。 ・区役所を建て直す際は、屋上ガーデンや図書館のある建物にしてほしい。 ・魚が住める堀川に改修をしてほしい。現在の川はきれいだがコンクリートで固められたもので残念である。京都府とも協議して子どもが遊べる自然豊かな川にしてほしい。 ・聚楽保育所は廃止しないでほしい。住民を増やす、住んでもらえるまちづくりを進めるには、徒歩で行ける通いやすい保育園を増やすことが必要である。	本計画は、「京都市基本計画」とは同列・相互補完の関係にあり、市の計画に掲げる各施策については、区役所でも各関係部局と一体となって推進していきます。 いただいた御意見は、関係部局等とも共有し、区政はもとより市政を推進するさまざまな取組を進めるうえで参考とさせていただきます。

- ・保育士の待遇を改善し、保育所を増やしてほしい。小規模でもよいので駅の近くにあればよい。
- ・保育園の入園決定や小学校へ上がる前の検診の時期通達をもっと早めにしてほしい。
- ・お道具箱等の名前貼りを障害者の作業所にやってもらえるよう、保育所や幼稚園が作業所と一括で契約を結んでほしい。子育ての負担を減らしてほしい。
- ・土・日・祝にも学童クラブを利用できるようにしてほしい。
- ・文部科学省の「GIGA スクール構想」でタブレットが子どもに支給されるが、子どもたちを電磁波とブルーライトから守るための対策が必要ではないか。
- ・学校教育では受験勉強が中心である。10代～40代のひとに対して、日本の歴史の流れや日本人の心のあり方、人の道の講座等が必要である。忙しい世代には ICT の活用も必要ではないか。
- ・中学生にも学校給食を導入してほしい。
- ・自治会が高齢化しているので、市民しんぶんは業者配達にしたほうがいい。
- ・市政協力委員による市民しんぶんの配布はやめ、その委託料は、自治会活動に対する補助金に変えてほしい。
- ・必要な情報を最適な時期に知らせることが可能となるよう、京都市広報板を電子化してほしい。災害時の避難所への誘導等にも活用できる。
- ・区役所に「何でも相談室」はあるのか。あるなら存在感を高めてほしい。
- ・独居老人ということが分かれば、詐欺師や強盗、空き巣に狙われる恐れがあるので、学区の「独居老人の会」の名称は変更してほしい。

- ・喫煙可能な場所が限られていることで、路上喫煙者による吸い殻のポイ捨てが多く、非喫煙者を苦しめている。より多くの喫煙所の設置とその告知が必要である。喫煙所が各所に点在していることが望ましく、さらに公、民間問わずそれらが分かりやすくまとめられている地図等があれば、利用しやすくなり、結果的にさまざまなひとが過ごしやすいまちになると思う。
- ・名古屋市から引っ越して来ました。ごみの分別はもう少し細かく設定した方がいいと思う。
- ・ごみの収集時間は夕方から夜にした方がいい。
- ・段ボールごみの回収を毎週実施してほしい。
- ・駐輪場や小型バスによる路線を増やし、もっと移動しやすいまちにしてほしい。
- ・繁華街にバス一本でいけるようなまちづくりを考えてほしい。
- ・二条駅が観光バス等のターミナルとなり、嵐山や亀岡、丹波への観光拠点となってほしい。
- ・御池通をフランスのシャンゼリゼ通りのように安心・安全に楽しみながら歩ける通りにしてほしい。イルミネーション、歩道にかかるカフェ、屋台等ができればおもしろい。
- ・まちのにぎわいと地上の交通緩和のため、四条河原町から四条烏丸間や烏丸御池、二条駅等の地下街を充実させてほしい。
- ・京都市と連携し、適切な高さ規制の緩和を進めてほしい。四条河原町付近の繁華街の高さ規制を大規模に緩和してほしい。また、定住人口、交流人口の増加や四条河原町付近、二条駅付近の盛り上げによる新た

な魅力の創出も行ってほしい。（＊）

- ・集合住宅についての総戸数，棟数，建設地域，さらなる高さ制限の規制が必要である。住民説明会で合意しても，業者が替われば引き継がれないことがほとんどである。出費を伴う事項については京都市に資金供託をさせる等の対応も必要である。開発に伴う建築確認の申請許可要件に地域住民との合意書を含めてほしい。
- ・空き家対策を進めるにあたっては，外見は町家のまま内部のリノベーションを進めるべき。市内の業者に「永続的に」担って頂ける仕組みも必要である。空いている町家を市が安く借り上げることができる条例を作り，就学直前の親子を受け入れれば活性化につながる。
- ・人口減少による地域コミュニティの衰退は避けられない状況にある。区だけではなく，京都市総体として取り組む必要がある。ホテルや商業施設等を誘致するのではなく，定住人口を増加させるための手段が必要である。たとえば，市内の高さ規制等によって，高層のマンションを建てることのできないため，京都市内のマンションは周辺地域に比べて高額になり，京都市内に住みたいと思っても住めないひともいる。持続可能なまちづくりをめざすためには，まずは住みやすい環境を整えてほしい。
- ・大学生の約半数が奨学金を利用しているが，収入は減少の一途である。低家賃の賃貸住宅に円滑に入居できる環境づくりが課題となっている。地域活動への参加を条件に大学生の居住支援を推進するべきである。住宅セーフティネット法の住宅確保要配慮者に「大学生」を京都市が追加することで，居住支援法人が国の補助金を活用

して円滑入居に取り組むことが可能となる。 ・外資系のホテルや民泊により，一般市民の居住用の物件が買いにくくなっている。市民以外の物件購入に対しては3割程度の税金をかける，購入後も別荘税を課税する等の対策が必要である。 ・防災対策として，電線の地下化を進めてほしい。 ・200年くらい先を見据え，道路拡幅，電線の地中化等に取り組んでほしい。 ・円町から千本丸太町周辺にショッピングセンターがあれば便利になる。 ・西のエリアに大型商業施設ができ，にぎわいのあるまちとなってほしい。 ・観光地としての京都は大変魅力的であるが，住民にとっては交通渋滞や歩道も旅行者が多いため歩きにくい。四条大宮や二条駅では日用品，雑貨品，衣類等が買いづらいので中型のショッピングモールをつくり，住みよいまちになってほしい。 ・二条駅周辺に大型商業施設ができれば，二条駅が京都観光の拠点となりにぎわう。 ・土地区画整理事業で作られた BiVi 二条については，契約期間の満了が近づいてきているので，その後のまちづくりについて検討する必要がある。 ・まちづくり戦略は，何が正解かわからない。10年単位で振り返った時に答えらしきものが見えるかもしれない。 ・5年後の姿は今の一步にある。	